

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	拓殖大学
設置者名	学校法人拓殖大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計			
商学部	経営学科	夜・通信	0	0	38	38	13		
	国際ビジネス学科	夜・通信			36	36	13		
	会計学科	夜・通信			16	16	13		
政経学部	法律政治学科	夜・通信		4		58	62	13	
	経済学科	夜・通信				72	76	13	
外国語学部	英米語学科	夜・通信		22		18	40	13	
	中国語学科	夜・通信				12	34	13	
	スペイン語学科	夜・通信				8	30	13	
	国際日本語学科	夜・通信				14	36	13	
工学部	機械システム工学科	夜・通信		20		8	28	13	
	電子システム工学科	夜・通信				34	54	13	
	情報工学科	夜・通信				16	36	13	
	デザイン学科	夜・通信	40			60	13		
国際学部	国際学科	夜・通信	0		72	72	13		
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページに公表している。

<https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/disclosure/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	拓殖大学
設置者名	学校法人拓殖大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページにて公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/organization.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2023. 6. 17 ～2027. 5. 31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	株式会社役員	2021. 6. 1 ～2025. 5. 31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	認可法人役員	2024. 4. 1 ～2028. 3. 31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	株式会社役員	2023. 12. 1 ～2027. 11. 30	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	拓殖大学
設置者名	学校法人拓殖大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学の講義要項(シラバス)は、毎年度4月から本学ホームページに掲載し予め学生に周知している。全学統一の様式により、記載項目を「科目名」「英文科目名」「担当教員名」「開講キャンパス」「科目ナンバリング」「ディプロマ・ポリシー(DP)キーワード」「授業形態」「授業の目的及び到達目標」「授業計画」「授業の方法」「予習・復習」「成績評価の方法」「教科書・参考書」「関連する科目」「当該科目の実務経験(該当する場合のみ記載)」の構成としている。</p> <p>単位制度の本来の趣旨を踏まえ、学生の主体的な学修を促す仕組みとして予習・復習に必要な時間・内容や課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法を講義要項に明記している。また、学生に自らの課程を通じた学修成果を把握させるために、「卒業認定・学位授与の方針」と当該科目との対応関係も併記している。さらに、個々の授業科目の記載内容が適正であるかといった観点から組織的に検討を行うため、第三者が精査する講義要項(シラバス)のチェック体制を整えている。この講義要項は、学生が年間または4年間の履修計画、学修計画を立てる際や授業科目を選択する際に活用されている。</p>	
授業計画書の公表方法	本学ホームページに公表している。 https://syllabus.takushoku-u.ac.jp/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

本学では、成績評価を客観的かつ厳格に行うことを目的として、次のとおり、GPAの基準を用いて「成績不振学生の面接」を行うこと、学科目別の成績評価分布の状況を把握し公表したうえで、教員間又は授業科目間の平準化を目指した「成績評価基準」(成績評価分布の目安)を定めるなどの取組を行っている。

履 修 要 項 (抜粋)

(1) 教員間又は授業科目間の平準化を目指した「成績評価基準」等

- ①試験問題やレポートの難易度は、客観的な評価となるよう、工夫し予め70から80点程度の平均点となるように努めます。
- ②成績評価は、学期試験、レポート、小テスト、授業への参加度など、多面的かつ総合的に評価することを奨励し、その個々の評価点の割合を講義要項で示します。
- ③成績評価基準は、極端な偏りの評価が行われないう、学科目別成績評価分布表の平均値を踏まえ、下表のとおり、評価の分布(目安)となるように努めます。

○成績評価基準(評価分布の目安)

評 価	素 点	評価の分布(目安)
S	100~90点	20%程度
A	89~80点	20~30%程度
B	79~70点	20~30%程度

※C・Fの評価の分布の目安は「学科目別成績評価分布」の平均値を考慮します。

※ただし履修者20人以下及び習熟度別クラスの科目は対象から除きます。

さらに、「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」において、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき厳格に行うことを明記している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学のGPA (Grade Point Average) は、科目毎の成績素点に対して GP (Grade Point) を設定し、その科目の単位数を加味して1単位あたりのGPの平均値を表したもので、学修状況を総合的に示す指標として用いている。なお、本学のGPAは次のとおり算出している。

(1) 各科目のGPを求める

$$GP = (\text{成績素点} - 55) / 10$$

- ただしGPが ① 0.5未満のときは、GP = 0.0 (59点以下)、
② 0.5~0.9のときは、GP = 1.0 (60点~64点)、
③ 4.1~4.5のときは、GP = 4.0 (96点~100点)となる。

(2) GPAを求める

$$GPA = \frac{(\text{履修登録科目のGP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録科目の総単位数 (不合格科目含む)}}$$

※GPAの値は、小数第3位を切り捨てて、少数第2位まで表示する。

(3) GPAの発表

GPAは、学業成績表に学期(前期・後期)・年度・累積の3種類を記載する。また、成績証明書に累積のGPAを記載する。

なお、本学では、成績評価を客観的かつ厳格に行うことを目的として、GPAの基準を用いて「成績不振学生の面接」等を行うこと、学科目別の成績評価分布の状況を把握し公表したうえで、教員間又は授業科目間の平準化を目指した「成績評価基準」(成績評価分布の目安)を定めるなどの取組を行っている。

客観的な指標の算出方法の公表方法	本学ホームページに公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/president/GPA-1.html
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学の各学科「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」は、全学的な「拓殖大学『三つのポリシー』の策定方針」に基づき、①卒業・修了時までの到達目標(知識、技能、態度等)及び②卒業・修了後の進路の大きく2構成としている。同方針に謳う到達目標は、学生が卒業・修了時に身につけている能力であり、社会に対しその能力を保証するものである。従って、学生の学修目標として機能するよう、到達目標では、「何が身につけられるのか」を、専門的能力、コミュニケーション能力、課題発見解決能力等の観点から分類し、具体的かつ明確に定めている。以上の到達目標を達成したうえで、学長は、本学に4年以上在学し各学部が定める授業科目及び単位数を修得した者に対して、教授会の議を経て、卒業を認定している。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	本学ホームページに公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/faculty-educational-policy.html
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	拓殖大学
設置者名	学校法人拓殖大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学ホームページにて公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/finance.html
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和6(2024)年度事業計画 対象年度:2024)
公表方法: https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/finance.html
中長期計画(名称:学校法人拓殖大学教育ルネサンス2030 対象年度:2021~2025)
公表方法: https://plan2030.takushoku-u.ac.jp/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:本学ホームページに公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/evaluation.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:本学ホームページに公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/evaluation.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 商学部 経営学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページに公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fcom-about.html ）
（概要） 企業、組織、流通及び市場の仕組みやその活動を理解する能力と、経営を 実践する能力を修得し、ビジネスの世界で活躍できる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fcom-about.html ）
（概要） <p style="text-align: center;">商学部 経営学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>①卒業時までの到達目標 「商学の諸分野における実学を身につけ、グローバル化の進むビジネス 社会で活躍できる人材を育成する」とする商学部全体の人材の育成に 関する目的を踏まえて、経営学科では、企業、組織、流通及び市場の仕組 みやその活動を理解する能力と、経営を実践する能力を修得し、ビジネス の世界で活躍できる人材を育成するため、十分な教育を行い、以下の到達 目標（知識・技能・協働力等）に達した者に対して学士（商学）の学位を 授与する。</p> <p>ア. 幅広い教養の修得 豊かな教養の礎を築くとともに、日本語のコミュニケーション能 力やキャリア発達にかかわる諸能力など、社会人として必要な技能 を身につけている。</p> <p>イ. 外国語運用能力の修得 外国語や日本語（外国人留学生）の基礎的な知識を修得し、その知 識を活かして優れた語学運用能力が発揮できるコミュニケーション 力を身につけている。</p> <p>ウ. 専門的知識・技能の修得 商学・経営学の基礎的な知識を修得し、幅広い教養、実践的な IT 活用能力などを身につけたうえで、「経営」「IT 経営」「流通マーケテ ィング」の 3 つの専門分野・領域のいずれかで十分な専門的知識と技 能等を身につけている。</p> <p>エ. 問題発見解決能力の修得 獲得した知識・技能等を総合的に活用して問題を発見し、その解決 に必要な情報収集・整理・分析能力を有し、その問題を確実に解決で きる能力を身につけている。</p> <p>オ. コミュニケーション・協働力の修得 各自の専門の学問分野・領域における高度な知識を有し、社会にお</p>

いてコミュニケーション力を発揮し問題発見解決を他者と協働して行う能力を身につけている。

なお、外国人留学生は、以上の能力に加え、日本の企業等への就職に対応できる専門的な日本語能力を身につけている。

②卒業後の進路

同課程の教育課程を修め、以上の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、製造、金融、流通、情報通信産業をはじめとする様々な業種の国内外の企業、あるいは、NPO 団体、官公庁等において、身に付けたスキルを活かした高い業務遂行能力を発揮することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fcom-about.html>）

（概要）

商学部 経営学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程の編成

商学部経営学科の教育課程は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」や卒業時に求める学修成果を踏まえ、以下の5点を重視し編成する。幅広い教養及び専門的知識・技能の育成は講義形態を、外国語運用能力、課題発見解決能力及びコミュニケーション・協働力の育成には演習形態を採用し、特に課題発見解決能力の育成にはアクティブ・ラーニングを取り入れる。さらに、国内外の企業、団体、官公庁等において、身に付けたスキルを活かした高い業務遂行能力が獲得できるように、順次性のある体系的な教育課程を編成する。

ア. 幅広い教養の育成

教養教育科目の系列を「人間について考える」「社会について考える」「自然と環境について考える」「コミュニケーション能力を高める」「学際」の5系列とし、これら系列をバランスよく理解させ、幅広い教養を育成する。

イ. 外国語運用能力の育成

必修外国語科目区分や選択外国語科目区分において、基礎的な知識を理解させ、優れた外国語運用能力を実践できるように育成する。

ウ. 専門的知識・技能の育成

商学・経営学の基礎的な知識を修得し、幅広い教養、実践的なIT活用能力などを身につけたうえで、「経営」「IT経営」「流通マーケティング」の3つの専門分野・領域のいずれかで十分な専門的知識と技能等を身につけ実践できるように育成する。

エ. 問題発見解決能力の育成

幅広い教養教育科目や商学の基礎科目である経営学総論、流通総

論、IT 経営基礎論を土台としたコース基本科目により獲得した知識、および、IT リテラシー科目、経営情報演習等で修得した IT 利用能力等を総合的に活用して問題を発見し、その解決に必要な情報収集・整理・分析能力を有し、確実に問題解決を遂行できるよう育成する。

オ. コミュニケーション・協働力の育成

各自の専門の学問分野・領域において修得した知識を生かし、各種設置された演習やアクティブ・ラーニングを実践する科目、専門のゼミナール科目において他者と協働し、問題発見解決能力をより一層ブラッシュアップさせ、社会においてコミュニケーション能力を発揮し即戦力となる人材を育成する。

なお、外国人留学生は、以上の育成に加え、日本語、ビジネス日本語等の科目において、就職に対応できる専門的な日本語能力を向上させ、日本の企業等で就職できるように育成する。

②学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fcom-about.html>）

(概要)

商学部 経営学科
入学者受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

①入学前に求められる能力、水準等

商学部経営学科は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」を踏まえ、企業、組織、流通及び市場の仕組みやその活動を理解する能力と、経営を実践する能力を修得し、国内外の企業、団体、官公庁等で、身につけたスキルを活かし高い業務遂行能力を有した、有為の人材を輩出することを目的とする。このため、本学科に入学を希望する場合、本学科の目的及び研究分野に高い関心を持ち、さらに次のア. 学習歴を有するとともに、イ. 学力水準及びウ. 能力を身につけている学生を求める。

ア. 学習歴

- (ア) 高等学校での教育課程を幅広く学習している。
- (イ) 外国人留学生は、入学前に日本語を学習している。

イ. 学力水準

- (ア) 高等学校で修得すべき基礎的な知識、言語運用能力、論理的思考能力及び社会的適応能力を身につけている。
- (イ) 商学・経営学の領域を学修するために必要とする基礎的な学力や技能を身につけている。
- (ウ) 外国人留学生は、授業を受けるために必要とする日本語能力を身につけている。

ウ. 能力

- (ア) 課題分析に必要となる基本的な知識を理解し分析することを身につけている。
- (イ) 他者の意見を聞き内容を正確に理解することを身につけている。
- (ウ) 順序立ててわかりやすく文書を書くことや説明することを身につけている。(エ) 共通の目標を達成するために個人の役割を理解し行動することを身につけている。
- (オ) 目的意識をもち大学の活動に積極的に参加し、目標を実現するための方向性を自ら示す力を身につけている。

②入学希望者に求められる能力、水準等の判定方法

入学者選抜方法は、高等学校での活動実績(資格含む)や人物ならびに目的意識とそれを実現しうる学修意欲、学習歴及び能力を審査するための面接・プレゼンテーション等に重点をおく「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜」と、学力水準の審査に重点をおく「一般選抜」の三つに大きく分かれ、各々の区分において入学に求められる水準、能力等を個別に審

査・判定する。前者においては、それまでに高等学校等で得た知識や体験、資格も審査の対象とする。

外国人留学生の入学者選抜方法も同様に、外国人留学生専用の「外国人留学生選抜（自己推薦）」「学校推薦型選抜」及び「一般選抜」の三つからなる。「外国人留学生選抜（自己推薦）」及び「学校推薦型選抜」では学修意欲、学習歴及び能力の審査に重点をおき、「一般選抜」では学力水準の審査に重点をおいて判定する。

外国人留学生特別枠の入学者選抜方法は、学修意欲、学習歴及び能力の審査に重点をおく「日本語教育機関推薦指定校」と学力水準の審査に重点をおく「日本留学試験利用型」の二つの制度を設ける。

学部等名 商学部 国際ビジネス学科

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fcom-about.html>）

(概要)

貿易、サービス・ビジネス、ホスピタリティ・ビジネス、コミュニケーション、ビジネス英語の各領域における実学を総合的に修得し、国際ビジネスの舞台で活躍できる人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fcom-about.html>）

(概要)

商学部 国際ビジネス学科
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

①卒業時までの到達目標

「商学の諸分野における実学を身につけ、グローバル化の進むビジネス社会で活躍できる人材を育成する」とする商学部全体の人材の育成に関する目的を踏まえて、国際ビジネス学科では、貿易、サービス・ビジネス、ホスピタリティ・ビジネス、コミュニケーション、ビジネス英語の各領域における実学を総合的に修得し、国際ビジネスの舞台で活躍できる人材を育成するため、十分な教育を行い、以下の到達目標（知識・技能・態度等）に達した者に対して学士（商学）の学位を授与する。

ア. 幅広い教養の修得

豊かな教養の礎を築くとともに、日本語のコミュニケーション能力やキャリア発達にかかわる諸能力など、社会人として必要な技能を身につけている。

イ. 外国語運用能力の修得

英語に代表される実践的な言語運用能力を修得するとともに、幅広い教養を身につけ、グローバル社会の構造と動態、及び異文化を理解できる能力を身につけている。

ウ. 専門的知識・技能の修得

貿易・サービス・ビジネス、ホスピタリティ・ビジネスの専門知識を十分身につけている。

エ. 問題発見解決能力の修得

ビジネスの専門的な知識・センス等を活用して問題を発見し、その解決に必要な情報収集・整理・分析能力を有し、その問題を確実に解決できる能力を身につけている。

オ. コミュニケーション・協働力の修得

ビジネス・コミュニケーションにおける高度な知識・技能を有し、グローバルな地域で他者と協働して行動できる能力を身につけている。

なお、外国人留学生は、以上の能力に加え、日本の企業等への就職に対応できる専門的な日本語能力を身につけている。

②卒業後の進路

同課程の教育課程を修め、以上の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、国内外の商社、貿易会社、観光産業、金融業等の分野、また、多国籍企業など国際的な職場で従業員のコミュニケーションを円滑にする職務において、優れた能力を発揮することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fcom-about.html>）

（概要）

商学部 国際ビジネス学科
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程の編成

商学部国際ビジネス学科の教育課程は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」や卒業時に求める学修成果を踏まえ、以下の5点を重視し編成する。幅広い教養及び専門的知識・技能の育成に講義形態を中心に、外国語運用能力、課題発見解決能力及びコミュニケーション・協働力の育成に演習形態を中心に採用し、特に課題発見解決能力の育成にはアクティブ・ラーニングを取り入れる。さらに、国内外の商社、貿易会社、観光産業、金融業等の分野につながるとともに、多国籍企業の本部または諸外国の支店など国際的な職場で従業員のコミュニケーションを円滑にする能力の育成につながる順次性のある体系的な教育課程を編成する。

ア. 幅広い教養の育成

教養教育科目の系列を「人間について考える」「社会について考える」「自然と環境について考える」「コミュニケーション能力を高める」「学際」の5系列とし、これら系列をバランスよく理解させ、幅広い教養を育成する。

イ. 外国語運用能力の育成

ビジネス英語能力を修得するために、3年次まで必修英語科目を配置する。さらに、本学科独自の選択英語科目を数多く配置することで、より高度なレベル・内容に応じたビジネス英語を実践できるように育成する。第二外国語科目においても、基礎的な知識を理解させ、優れた外国語運用能力を実践できるように育成する。

ウ. 専門的知識・技能の育成

貿易・物流・金融業界の企業やグローバルな事業展開をする企業で活躍したいという場合には、「貿易」分野と「サービス・ビジネス」分野、及び「コミュニケーション」分野をよく理解させ、専門的知識・技能を育成する。また、旅行・観光をはじめとするホスピタリティ産業で活躍したいという場合には、「ホスピタリティ・ビジネス」分野と「コミュニケーション」分野をよく理解させ、専門的知識・技能を育成する。

エ. 問題発見解決能力の育成

ゼミナールなどの演習科目においてアクティブ・ラーニングを取

り入れ、獲得した知識・技能等を総合的に活用して問題を発見し、その解決に必要な情報収集・整理・分析能力を有し、確実に問題解決を遂行できるように育成する。

オ. コミュニケーション・協働力の育成

2年次から配置している、ゼミナールの活動を通じ、コミュニケーション・協働力を育成する。

なお、外国人留学生は、以上の育成に加え、日本語、ビジネス日本語等の科目において、就職に対応できる専門的な日本語能力を向上させ、日本の企業等で就職できるように育成する。

②学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fcom-about.html>）

(概要)

商学部 国際ビジネス学科 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

①入学前に求められる能力、水準等

商学部国際ビジネス学科は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」を踏まえ、貿易、サービス・ビジネス、ホスピタリティ・ビジネス、コミュニケーション、ビジネス英語の各領域における実学を総合的に修得し、国内外の商社、貿易会社、観光産業、金融業等の分野で活躍できる、また、多国籍企業の本部または諸外国の支店等国際的な職場で従業員のコミュニケーションを円滑にする職務において、優れた能力を発揮することができる有為の人材を輩出することを目的とする。このため、本学科に入学を希望する場合、本学科の目的及び研究分野に高い関心を持ち、さらに次のア. 学習歴を有するとともに、イ. 学力水準及びウ. 能力を身につけている学生を求める。

ア. 学習歴

(ア) 高等学校での教育課程を幅広く学習している。

(イ) 外国人留学生は、入学前に日本語を学習している。

イ. 学力水準

(ア) 商学の学問領域を学修するために必要とする基礎的な学力や技能を身につけている。

(イ) 国際コミュニケーションを学修するために必要とする基礎的な英語力を身につけている。

(ウ) 外国人留学生は、本学科の授業を受けるために必要とする日本

語能力を身につけている。

ウ. 能力

(ア) 課題分析に必要となる基本的な知識を理解することを身につけている。

(イ) 他者の意見を聞き内容を正確に理解することを身につけている。

(ウ) 順序立ててわかりやすく文書を書くことや説明することを身につけている。

(エ) 共通の目標を達成するために個人の役割を理解し行動することを身につけている。

②入学希望者に求められる能力、水準等の判定方法

入学者選抜では、人物ならびに目的意識とそれを実現しうる学修意欲、学習歴及び能力を審査するための面接・プレゼンテーション等に重点をおく「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜」と、学力水準の審査に重点をおく「一般選抜」の三つの方法により入学に求められる水準、能力等を判定する。前者においては、それまでに高等学校等で得た知識や体験、資格も審査の対象とする。

外国人留学生の入学者選抜も同様に大きく外国人留学生専用の「外国人留学生選抜（自己推薦）」「学校推薦型選抜」及び「一般選抜」の三つからなる。「外国人留学生選抜（自己推薦）」及び「学校推薦型選抜」では学修意欲、学習歴及び能力の審査に重点をおき、「一般選抜」では学力水準の審査に重点をおいて判定する。

外国人留学生特別枠の入学者選抜では、学修意欲、学習歴及び能力の審査に重点をおく「日本語教育機関推薦指定校」と学力水準の審査に重点をおく「日本留学試験利用型」の二つの制度を設ける。

学部等名 商学部 会計学科

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fcom-about.html>）

（概要）

ビジネス世界における会計情報の役割及び企業法制度の仕組みを修得し、職業的会計人（会計のプロフェッショナル）として活躍できる人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fcom-about.html>）

（概要）

商学部 会計学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

①卒業時までの到達目標

「商学の諸分野における実学を身につけ、グローバル化の進むビジネス社会で活躍できる人材を育成する」とする商学部全体の人材の育成に関する目的を踏まえて、会計学科では、ビジネス世界における会計情報の役割及び企業法制度の仕組みを修得し、職業的会計人(会計のプロフェッショナル)として活躍できる人材を育成するため、十分な教育を行い、以下の到達目標(知識・技能・態度等)に達した者に対して学士(商学)の学位を授与する。

ア. 幅広い教養の修得

豊かな教養の礎を築くとともに、日本語のコミュニケーション能力やキャリア発達にかかわる諸能力など、社会人として必要な技能を身につけている。

イ. 外国語運用能力の修得

高度な外国語運用能力を修得するとともに、幅広い教養を身につけ、グローバル社会の構造と動態、及び異文化を理解できる能力を身につけている。

ウ. 専門的知識・技能の修得

会計に関する専門的知識と技能を身につけ、企業等が作成する各種の会計情報を効果的に利用しながら幅広くビジネス社会で活躍する知見を身につけている。

エ. 問題発見解決能力の修得

会計分野の専門知識を活かした問題発見能力や分析能力、判断力を身につけている。

オ. コミュニケーション・協働力の修得

国際的視野に立って異文化を理解し、コミュニケーションをはかる能力を身につけている。

なお、外国人留学生は、以上の能力に加え、日本文化の理解や就職に対応できる専門的な日本語能力を身につけている。

②卒業後の進路

同課程の教育課程を修め、以上の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、公認会計士や税理士などの会計専門職のみならず、証券アナリスト、ファイナンシャル・プランナー、国税専門官、企業の財務・経理担当者など、企業会計に精通したビジネスの分野で優れた能力を発揮することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法: 本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fcom-about.html>)

(概要)

商学部 会計学科
教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

①教育課程の編成

商学部会計学科の教育課程は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」や卒業時に求める学修成果を踏まえ、以下の5点を重視し編成する。幅広い教養及び専門的知識・技能の育成に講義形態を、外国語運用能力、課題発見解決能力及びコミュニケーション・協働力の育成に演習形態を採用し、特に課題発見解決能力の育成にはアクティブ・ラーニングの要素を取り入れる。さらに、公認会計士や税理士などの会計専門職のみならず、証券アナリスト、ファイナンシャル・プランナー、国税専門官、企業の財務・経理担当者など、企業会計に精通したビジネスマンの活躍に結びつく順次性のある体系的な教育課程を編成する。

ア. 幅広い教養の育成

教養教育科目の系列を「人間について考える」「社会について考える」「自然と環境について考える」「コミュニケーション能力を高める」「学際」の5系列とし、これら系列をバランスよく理解させ、幅広い教養を育成する。

イ. 外国語運用能力の育成

必修外国語科目区分や選択外国語科目区分において、基礎的な外国語運用能力を修得させ、会計分野の知見を活かしたビジネス・スキルの実践がはかれるよう育成する。

ウ. 専門的知識・技能の育成

発展・応用科目（3・4年次）には、①会計基準と制度会計、②経営管理と会計情報、③国際会計とその他の会計の3領域にわたる科目を配置し、将来の進路に応じた、多様な側面からの会計領域を学修できるよう育成する。加えて、会計分野の基礎科目（2年次）から、基礎力拡充科目（2年次）を経て、発展・応用科目（3・4年次）へと段階的に、体系的かつ順次性に考慮する。

エ. 問題発見解決能力の育成

会計分野の演習科目に加え、商法（会社法）、租税法及び経済に関する演習科目を編成し、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の修得により問題発見解決能力を育成する。

オ. コミュニケーション・協働力の育成

ゼミナールなどの演習科目において問題発見解決能力の育成を通じて、コミュニケーション・協働力を育成する。

なお、外国人留学生は、以上の育成に加え、日本語、ビジネス日本語等の科目において、日本の文化や就職に対応できる専門的な日本語能力を向上させ、国内外の企業等で就職できるように育成する。

②学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき

厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fcom-about.html>）

（概要）

商学部 会計学科
入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

①入学前に求められる能力、水準等

商学部会計学科は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」を踏まえ、ビジネス世界における会計情報の役割及び企業法制度の仕組みを修得し、職業的会計人(会計のプロフェッショナル)として活躍できる人材を育成し、活躍する有為の人材を輩出することを目的とする。このため、本学科に入学を希望する場合、本学科の目的及び研究分野に高い関心を持ち、さらに次のア. 学習歴を有するとともに、イ. 学力水準及びウ. 能力を身につけている学生を求める。とくに、会計情報や職業的会計人の社会的な役割に強い関心を持ち、深く考察してみたいという知的探究心を備えている人、各種の検定試験へチャレンジしている等、段階を追った学修ができるだけの基礎的な学習習慣が身につけている人を求める。

ア. 学習歴

高等学校等で国語、英語及び数学または社会（日本史、世界史、政治・経済）を学習している。

外国人留学生は、入学前に日本語を学習している。

イ. 学力水準

会計学の学問領域を学修するために必要とする基礎的な学力や技能を身につけている。

外国人留学生は、本学科の授業を受けるために必要とする日本語能力を身につけている。

ウ. 能力

（ア）課題分析に必要となる基本的な知識を理解することを身につけている。

（イ）他者の意見を聞き内容を正確に理解することを身につけている。

（ウ）順序立ててわかりやすく文書を書くことや説明することを身につけている。

（エ）共通の目標を達成するために個人の役割を理解し行動することを身につけている。

②入学希望者に求められる能力、水準等の判定方法

入学者選抜では、人物ならびに目的意識とそれを実現しうる学修意欲、学習歴及び能力を審査するための面接・プレゼンテーション等に重点をおく「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜」と、学力水準の審査に重点をおく「一般選抜」の三つの方法により入学に求められる水準、能力等を判定する。前者においては、それまでに高等学校等で得た知識や体験、資格も審査の対象とする。

なお、外国人留学生の入学者選抜も同様に大きく外国人留学生専用の「外国人留学生選抜（自己推薦）」「学校推薦型選抜」及び「一般選抜」の三つからなる。「外国人留学生選抜（自己推薦）」及び「学校推薦型選抜」では学修意欲、学習歴及び能力の審査に重点をおき、「一般選抜」では学力水準の審査に重点をおいて判定する。

学部等名 政経学部 法律政治学科

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fpse-about.html>）

（概要）

法律学・政治学分野における理論的・実践的知識を身につけ、グローバル化時代の実社会の諸問題を的確に指摘し、解決できる能力と意欲を持った人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fpse-about.html>）

（概要）

政経学部 法律政治学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

①卒業時までの到達目標

「法律・政治・経済の3分野における基礎及び専門知識を身につけ、国際的視野に立ち公共と民間の多様な領域で社会に貢献できる人材を育成する」ことを学位授与の前提とする政経学部全体の方針を踏まえて、法律政治学科では、特に法律学・政治学分野における理論的・実践的知識を身につけ、グローバル化時代の実社会の諸問題を的確に指摘し、解決できる能力と意欲を持った人材を育成するため、十分な教育を行い、以下の到達目標（知識・技能・態度等）に達した者に対して学士（法律政治学）の学位を授与する。

ア. 幅広い教養の修得

豊かな教養の礎を築くとともに、日本語のコミュニケーション能力やキャリア発達にかかわる諸能力など、社会人として必要な技能を身につけている。

イ. 外国語運用能力の修得

修得した外国語とそれを使用する国・地域の基礎的な知識を修得

し、多様な民族・文化への高度な対応力を身につけている。

ウ. 専門的知識・技能の修得

現実の法律・政治現象を理解する能力を身につけるとともに、他者と協働の上、それを実際の問題解決に活用する能力を身につけている。

エ. 問題発見解決能力の修得

法律学・政治学の視点から状況を相対化して、取り組むべき課題を発見し解決する能力を身につけている。

オ. コミュニケーション・協働力の修得

国内外の現場で人々と協働して具体的な解決策を模索し、その実現を図っていく姿勢を身につけている。

なお、外国人留学生は、以上の能力に加え、日本文化の理解や日本の企業等への就職に対応できる専門的な日本語能力を身につけている。

②卒業後の進路

同課程の教育課程を修め、以上の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、建学の理念である海外雄飛のみならず、国内においても政界や法曹界、国家公務員や地方公務員、国際社会を視野に事業を展開する出版やマスコミ等の民間部門で、優れた能力を発揮することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fpse-about.html>）

（概要）

政経学部 法律政治学科

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程の編成

政経学部法律政治学科の教育課程は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」や卒業時に求める学修成果を踏まえ、以下の5点を重視し編成する。幅広い教養及び専門的知識・技能の育成には講義形態を中心に、外国語運用能力と問題発見解決能力及びコミュニケーション・協働力の育成には演習形態を中心に採用し、特に問題発見解決能力の育成についてはアクティブ・ラーニングを取り入れる。さらに、国家公務員や地方公務員、国際社会を視野に事業を展開する民間企業等の職業や政界・法曹界の分野につながる順次性のある体系的な教育課程を編成する。

ア. 幅広い教養の育成

教養教育科目の系列を「人間について考える」「社会について考える」「自然と環境について考える」「コミュニケーション能力を高める」「学際」の5系列とし、これら系列をバランスよく理解させ、幅広い教養を育成する。「キャリア・ディベロップメント科目」においてキャリア発達にかかわる能力を育成する。

イ. 外国語運用能力の育成

「外国語科目」区分や「地域研究科目」において、外国語とそれを使用する国・地域を理解させ、多様な民族・文化への高度な対応ができるように育成する。

ウ. 専門的知識・技能の育成

「基礎科目」、「学科専門科目」を順次性をもって学ぶことにより、現実の法律・政治現象を理解し、実際の問題解決に活用できるように育成する。

エ. 問題発見解決能力の育成

「演習科目」を順次性をもって学ぶことにより、法律学・政治学の視点から取り組むべき課題を発見し、他者と協働の上、解決できるように育成する。

オ. コミュニケーション・協働力の育成

「演習科目」や「キャリア・ディベロップメント科目」その他のアクティブ・ラーニング科目を学ぶことにより、国内外の現場で人々と協働できるように育成する。

なお、外国人留学生は、以上の育成に加え、日本語、日本の社会と文化、ビジネス日本語及びキャリアデザイン等の科目において、日本の文化や就職に対応できる専門的な日本語能力を向上させ、日本の企業等で就職できるように育成する。

②学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fpse-about.html>）

（概要）

政経学部 法律政治学科 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

①入学前に求められる能力、水準等

政経学部法律政治学科は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」を踏まえ、法律学・政治学分野における理論的・実践的知識を身につけ、グローバル化時代の実社会の諸問題を的確に指摘し、解決できる能力を修得し、海外雄飛のみならず、国内においても政界や法曹界、国家公務員や地方公務員、国際社会を視野に事業を展開する出版やマスコミ等の民間部門で、活躍する有為の人材を輩出することを目的とする。このため、本学科に入学を希望する場合、本学科の目的及び研究分野に高い関心を持ち、さらに次のア. 学習歴を有するとともに、イ. 学力水準及びウ. 能力を身につけている学生を求める。

ア. 学習歴

高等学校等で国語、英語、政治・経済や世界史等の社会科学科目を学習している。

外国人留学生は、入学前に日本語を学習している。

イ. 学力水準

法律学や政治学の学問領域を学修するために必要とする基礎的な学力や技能を身につけている。

外国人留学生は、本学科の授業を受けるために必要とする日本語能力を身につけている。

ウ. 能力

(ア) 高等学校で修得すべき基本的知識を身につけている。

(イ) グローバリゼーションへの興味と論理的思考力を身につけている。

(ウ) 国内外の社会現象への強い関心と行動力を身につけている。

(エ) 地域社会やグローバル社会を支える志を身につけている。

②入学希望者に求められる能力、水準等の判定方法

入学者選抜では、人物ならびに目的意識とそれを実現しうる学修意欲、学習歴及び能力を審査するための面接・プレゼンテーション等に重点をおく「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜」と、学力水準の審査に重点をおく「一般選抜」の三つの方法により入学に求められる水準、能力等を判定する。前者においては、それまでに高等学校等で得た知識や体験、資格も審査の対象とする。

なお、外国人留学生の入学者選抜も同様に大きく外国人留学生専用の「外国人留学生選抜（自己推薦）」「学校推薦型選抜」及び「一般選抜」の三つからなる。「外国人留学生選抜（自己推薦）」及び「学校推薦型選抜」では学修意欲、学習歴及び能力の審査に重点をおき、「一般選抜」では学力水準の審査に重点をおいて判定する。

学部等名 政経学部 経済学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページに公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fpse-about.html ）
（概要） 経済学分野における理論的・実践的知識を身につけ、グローバル化時代の実社会の諸問題を的確に指摘し、解決できる能力と意欲を持った人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fpse-about.html ）
（概要） 政経学部 経済学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
①卒業時までの到達目標

「法律・政治・経済の3分野における基礎及び専門知識を身につけ、国際的視野に立ち公共と民間の多様な領域で社会に貢献できる人材を育成する」ことを学位授与の前提とする政経学部全体の方針を踏まえて、経済学科では、特に経済学分野における理論的・実践的知識を身につけ、グローバル化時代の実社会の諸問題を的確に指摘し、解決できる能力と意欲を持った人材を育成するため、十分な教育を行い、以下の到達目標（知識・技能・態度等）に達した者に対して学士（経済学）の学位を授与する。

ア. 幅広い教養の修得

豊かな教養の礎を築くとともに、日本語のコミュニケーション能力やキャリア発達にかかわる諸能力など、社会人として必要な技能を身につけている。

イ. 外国語運用能力の修得

修得した外国語とそれを使用する国・地域の基礎的な知識を修得し、多様な民族・文化への高度な対応力を身につけている。

ウ. 専門的知識・技能の修得

現実の経済現象を理解する能力を身につけるとともに、他者と協働の上、それを実際の問題解決に活用する能力を身につけている。

エ. 問題発見解決能力の修得

経済学の視点から状況を相対化して、取り組むべき課題を発見し解決する能力を身につけている。

オ. コミュニケーション・協働力の修得

国内外の現場で人々と協働して具体的な解決策を模索し、その実現を図っていく姿勢を身につけている。

なお、外国人留学生は、以上の能力に加え、日本文化の理解や日本の企業等への就職に対応できる専門的な日本語能力を身につけている。

②卒業後の進路

同課程の教育課程を修め、以上の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、建学の理念である海外雄飛のみならず、国内においても国際社会との関わりが深い公益事業や流通・金融・サービス・IT・製造等の各分野で現場を支える人材としての道が拓けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fpse-about.html>）

（概要）

**政経学部 経済学科
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）**

①教育課程の編成

政経学部経済学科の教育課程は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」や卒業時に求める学修成果を踏まえ、以下の5点を重視し編成する。幅広い教養及び専門的知識・技能の育成には講義形態を中心に、外国語運用能

力と問題発見解決能力及びコミュニケーション・協働力の育成には演習形態を中心に採用し、特に問題発見解決能力の育成についてはアクティブ・ラーニングを取り入れる。さらに、公益事業や流通・金融・サービス・IT・製造などの民間企業への就職につながる順次性のある体系的な教育課程を編成する。

ア. 幅広い教養の育成

教養教育科目の系列を「人間について考える」「社会について考える」「自然と環境について考える」「コミュニケーション能力を高める」「学際」の5系列とし、これら系列をバランスよく理解させ、幅広い教養を育成する。「キャリア・ディベロップメント科目」においてキャリア発達にかかわる能力を育成する。

イ. 外国語運用能力の育成

「外国語科目」区分や「地域研究科目」において、外国語とそれを使用する国・地域を理解させ、多様な民族・文化への高度な対応ができるように育成する。

ウ. 専門的知識・技能の育成

「基礎科目」「学科専門科目」を順次性をもって学ぶことにより、経済学分野における理論的・実践的知識を身につけ、グローバル化時代の実社会の諸問題を的確に指摘し、解決できる能力を育成する。

エ. 問題発見解決能力の育成

「演習科目」（ゼミナール等）を順次性をもって学ぶことにより、現実の経済現象を理解する能力を身につけるとともに、他者と協働の上、それを実際の問題に活用できるように育成する。

オ. コミュニケーション・協働力の育成

「演習科目」や「キャリア・ディベロップメント科目」その他のアクティブ・ラーニング科目を学ぶことにより、国内外の現場で人々と協働できるように育成する。

なお、外国人留学生は、以上の育成に加え、日本語、日本の社会と文化、ビジネス日本語及びキャリアデザイン等の科目において、日本の文化や就職に対応できる専門的な日本語能力を向上させ、日本の企業等で就職できるように育成する。

②学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fpse-about.html>）

(概要)

政経学部 経済学科
入学者受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

①入学前に求められる能力、水準等

政経学部経済学科は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」を踏まえ、経済学分野における理論的・実践的知識を身につけ、グローバル化時代の実社会の諸問題を的確に指摘し、解決できる能力を修得し、海外雄飛のみならず、国内においても国際社会との関わりが深い公益事業や流通・金融・サービス・IT・製造等の各分野で現場を支える人材を輩出することを目的とする。このため、本学科に入学を希望する場合、本学科の目的及び研究分野に高い関心を持ち、さらに次のア. 学習歴を有するとともに、イ. 学力水準及びウ. 能力を身につけている学生を求める。

ア. 学習歴

高等学校等で国語、英語、政治・経済や世界史等の社会科系科目を学習している。さらに、外国人留学生は、入学前に日本語を学習している。

イ. 学力水準

経済学の学問領域を学修するために必要とする基礎的な学力や技能を身につけている。さらに、外国人留学生は、本学科の授業を受けるために必要とする日本語能力を身につけている。

ウ. 能力

- (ア) 高等学校で修得すべき基本的知識を身につけている。
- (イ) グローバリゼーションへの興味と論理的思考力を身につけている。
- (ウ) 国内外の社会現象への強い関心と行動力を身につけている。
- (エ) 地域社会やグローバル社会を支える志を身につけている。

②入学希望者に求められる能力、水準等の判定方法

入学者選抜では、人物ならびに目的意識とそれを実現しうる学修意欲、学習歴及び能力を審査するための面接・プレゼンテーション等に重点をおく「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜」と、学力水準の審査に重点をおく「一般選抜」の三つの方法により入学に求められる水準、能力等を判定する。前者においては、それまでに高等学校等で得た知識や体験、資格も審査の対象とする。

外国人留学生の入学者選抜も同様に大きく外国人留学生専用の「外国人留学生選抜 (自己推薦)」「学校推薦型選抜」及び「一般選抜」の三つからなる。「外国人留学生選抜 (自己推薦)」及び「学校推薦型選抜」では学修意欲、学習歴及び能力の審査に重点をおき、「一般選抜」では学力水準の審査に重点をおいて判定する。

外国人留学生特別枠の入学者選抜では、学修意欲、学習歴及び能力の審

査に重点をおく「日本語教育機関推薦指定校」と学力水準の審査に重点をおく「日本留学試験利用型」の二つの制度を設ける。

学部等名 外国語学部 英米語学科

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl-about.html>）

（概要）

世界で広く用いられている英語の高い運用力とコミュニケーション能力を修得し、豊かな教養と異文化理解をもって国の内外で活躍できる人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl-about.html>）

（概要）

外国語学部 英米語学科
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

英米語学科は、実践的で正確な英語力とコミュニケーション能力を持ち、世界的視野から自国と異なる文化を理解し、受け入れ、コミュニケーションを行いながら、世界の人々の交流に着実に貢献できる人となるよう、十分な教育・研究指導を行い、以下のような到達目標に達した学生に対して学士（英米語）の学位を授与する。

- ア. 英語に関する専門的知識を修得し、その知識を応用して正確なコミュニケーションを行う、あるいはその知識を英語教育などの活動に活かす能力を身につける。
- イ. 社会生活での幅広い話題について自由に話ができ、明確かつ詳細に自分の意見を表現できる言語運用能力と論理力、知識を修得する。
- ウ. 第二外国語について、聴く・話す・読む・書くことができる言語運用能力と知識を修得する。
- エ. 修得した言語運用能力と、教養教育で培われた知識を活かし、異文化を理解、尊重し、世界の人々と協働して諸問題を解決しようとする姿勢を持つ。
- オ. 自ら目標を設定し、その目標を達成する過程の中で、自律的に学ぶ力を養う。

英米語学科は、通訳・翻訳や児童英語教育の素養を持った学生を育て、高い英語力を駆使して文化交流、観光案内、ボランティアならびにビジネスにおけるさまざまな分野で活躍できる卒業生を送り出し、日本人全般の英語運用能力の向上と日本の国際化に貢献する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl-about.html>）

(概要)

外国語学部 英米語学科
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

英米語学科では、高度な英語の運用能力を修得するための科目と、自ら進んで異文化交流に従事する能力を持った学生を養成する教育課程を編成し、実施する。

ア. 教育課程を編成するにあたっての目的と具体的な方針

教育課程の編成にあたっては「卒業認定・学位授与の方針」に謳う人材育成のために、以下の4点を重視する。科目の配置においては、基礎から応用に向かう順次性、科目の目標・方法の系統性にも配慮する。

(ア) 英語に関する専門的知識を修得し、その知識を応用して正確なコミュニケーションを行う、あるいはその知識を英語教育などの活動に活かす能力を身につける。

- ・ 英語の必修科目は少人数で実施する。
- ・ 特にネイティブ教員が指導する英語による双方向型の必修科目は1クラス15人程度で開講する。
- ・ スピーチ、プレゼンテーション、ディベートなど、実践的コミュニケーション能力を高めることを目的とするアクティブ・ラーニングを積極的に導入した科目を設置する。

(イ) 社会生活での幅広い話題について自由に話ができ、明確かつ詳細に自分の意見を表現できる言語運用能力と論理力、知識を修得する。

- ・ 英語、コミュニケーション及び英語教育に関連する多彩な学問分野の知識を深めるゼミナールを2年間開講する。
- ・ 教養教育科目やキャリア支援科目、情報リテラシー科目を設置する。
- ・ 初年次教育として、日本語による様々な表現技法の訓練をする科目や本学の歴史、職業や防災に関連する基本的知識を修得する科目を設置する。

(ウ) 第二外国語について、聴く・話す・読む・書くことができる言語運用能力と知識を修得する。

- ・ 英語以外の第二外国語科目を2年間にわたる必修科目として開講する。
- ・ 第二外国語の修得にさらに力を入れる学生のために副専攻制度を設置する。

(エ) 異文化を理解、尊重し、世界の人々と協働して諸問題を解決しようとする姿勢を持つ。さらに、自ら目標を設定し、その目標を達成する過程の中で、自律的に学ぶ力を養う。

- ・ 英語圏諸国への短期・長期研修プログラムを実施する。
- ・ 必修科目の能力別クラス編成や TOEIC に基づいた進級要件など、自律的学修能力を高めるプログラムを導入する。

- ・ 初年次の必修授業と、3・4年次のゼミナールにおいて、主体的な問題発見・解決能力を向上させる授業を積極的に採用する。

イ. 学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、卒業認定・学位授与方針に沿った学修過程を重視しつつ、成績評価基準に基づき厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl-about.html>）

（概要）

外国語学部 英米語学科 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

英米語学科は、英語圏を中心とした地域の文化・社会に強い関心を持ち、留学等の異文化体験或いは交流プログラムに積極的に参加し、将来、国際的な相互文化交流に貢献したいと考えている人を求める。さらに次の要件を満たしていることが望まれる。

- ア. 高校卒業程度の英語の4技能（聴く・話す・読む・書く）と英文法を偏りなく学修し、英語の運用能力を自律的に伸ばす意欲がある。
- イ. 世界に活動の場を求め、英語を使う仕事を目指している。
- ウ. 英語学習の基礎である母語（主に日本語）を使用し、大学レベルの教養を修める能力があり、日常的に自律的学修を実践している。
- エ. 国内外での異文化体験があり、文化活動、スポーツ、ボランティア等にも積極的に参加し、連帯協力の重要性を認識している。

入学者選抜方法は、面接・プレゼンテーション等を重視する「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜」と、筆記で学力を審査する「一般選抜」の3種類を用意する。前者では、高校時代の様々な活動と日常の英語学習（音読、日常会話）を多面的に評価する。後者では、英語を重視した筆記試験（英文読解力、英文法知識、基本的な英会話表現等を問う）を実施する。

学部等名 外国語学部 中国語学科

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl-about.html>）

（概要）

世界で広く用いられている中国語の高い運用力とコミュニケーション能力を修得し、豊かな教養と異文化理解をもって国の内外で活躍できる人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl-about.html>）

(概要)

外国語学部 中国語学科
卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

中国語学科は、実践的で正確な中国語力とコミュニケーション能力を持ち、世界的視野から自国と異なる文化を理解し、受け入れ、コミュニケーションを行いながら、世界の人々の交流に着実に貢献できる学生に学士(中国語)の学位を授与する。到達目標は以下のとおりである。

- ア. 中国語に関する専門的知識を修得し、その知識を応用して正確なコミュニケーションを行う、あるいはその知識を中国語教育などの活動に活かす能力を身につける。
- イ. 中国語力に関しては、社会生活での幅広い話題について自由に話ができ、明確かつ詳細に自分の意見を表現できる言語運用能力と論理力、知識を修得する。
- ウ. 第二外国語について、聴く・話す・読む・書くことができる言語運用能力と知識を修得する。
- エ. 修得した言語運用能力と、教養教育で培われた知識を活かし、異文化を理解、尊重し、世界の人々と協働して諸問題を解決しようとする姿勢を持つ。
- オ. 自ら目標を設定し、その目標を達成する過程の中で、自律的に学ぶ力を養う。

中国語学科は、通訳・翻訳の素養を持った学生を育て、高い中国語能力を駆使して文化交流、観光案内、ボランティアならびにビジネスにおけるさまざまな分野で活躍できる卒業生を送り出し、日本と中国語圏との良好な関係の構築と維持、ならびに日本の国際化に貢献する。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl-about.html>)

(概要)

外国語学部 中国語学科
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

中国語学科は、中国語に関する堅実な基礎知識と高度な運用能力を目指すための専門科目群ならびに自ら進んで異文化交流に従事する能力を持った学生を養成する教育課程を編成し、実施する。また、コミュニケーション中国語と、ビジネス中国語という特殊化した科目群も設置する。そして、中国・中国語圏地域に関する各面の知識を学ぶため、言語関連では広東語、台湾語と中国語研究を、文化関連では、中国の歴史、社会事情、経済、文学、観光などに関する課程を編成し実施する。

- ア. 教育課程を編成するにあたっての目的と具体的な方針

教育課程の編成にあたっては「卒業認定・学位授与の方針」に謳う人材育成のために、以下の4点を重視する。科目の配当においては、基礎から応用に向かう順次性、科目の目標・方法の系統性にも配慮する。

(ア) 実践的で正確な中国語の運用能力とコミュニケーションの能力の向上

- ・ 中国語の必修科目は少人数で実施する。初習外国語として学修を開始する学生を対象に、1年次に専門科目必修科目として、中国語の四技能をバランスよく学ぶ総合中国語の課程を編成する。また2年次以降の専門科目必修科目ではそれぞれ「読む」「書く」「聴く」「話す」に重点を置く科目群を編成する。
- ・ 中国語母語話者の学生や中学校・高校時代から中国語を学修し、比較的高い中国語能力を有する学生を対象に、Sクラス（既習者クラス）を設ける。
- ・ ネイティブ教員が指導する中国語による双方向型の必修科目は1クラス15人程度で開講する。
- ・ スピーチ、プレゼンテーション、ディベートなど、実践的コミュニケーション能力を高めることを目的とするアクティブ・ラーニングを積極的に導入した科目を設置する。

(イ) 中国語圏の文化や社会に関する幅広い知識と教養の修得と、社会人としての汎用技能の向上

- ・ 日中間の人的、物的な交流が様々な分野においてますます拡大、緊密化していることを踏まえ、「コミュニケーション中国語」と「ビジネス中国語」の二つのコースを設置する。
- ・ 中国語だけでなく、中国・中国語圏の文化などにも幅広い知識を持たせ、また、学生の多様な興味や関心を満たすために、応用中国語を中心とした科目群（コース科目）、中国語学と文学を中心とした科目群、中国社会と文化に関連する事柄を中心とした科目群の三ブロックに分けて、基礎から応用の科目を設置する。
- ・ 中国語、コミュニケーション及び中国語圏文化に関する多彩な学問分野の知識を深めるためゼミナールを2年間開講する。
- ・ 教養教育科目やキャリア支援科目、情報リテラシー科目を設置する。

(ウ) 留学などの異文化体験を通じた、広い視野で多面的に物事を考え、協働することのできる人材の育成

- ・ 中国語圏諸国への短期・長期研修プログラムを実施する。
- ・ 中国語以外の第二外国語科目を2年間にわたる必修科目として開講する。
- ・ 第二外国語の修得にさらに力を入れる学生のために副専攻制度を設置する。

(エ) 自律的学修能力の育成

- ・ 必修科目の能力別クラス編成やコース制による履修モデルの提示など、自律的学修能力を高めるカリキュラムを編成する。

- ・ 初年次の必修授業と、3・4年次のゼミナールにおいて、大学生としてふさわしい主体的・能動的な学修スタイルを修得させる。
- ・ 初年次教育では、日本語による様々な表現法の訓練をする科目や本学の歴史、職業や防災に関連する基本的知識を修得させる科目を設置する。

イ. 学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、卒業認定・学位授与方針に沿った学修過程を重視しつつ、成績評価基準に基づき厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl1-about.html>）

（概要）

外国語学部 中国語学科 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

中国語学科は、中国・中国語圏の文化に興味をもち、将来、何らかの形や分野において、高度な中国語運用能力と、中国・中国語圏に関する幅広い知識でもって積極的に携わっていきたい人を次のとおり求める。

- ア. 中国語の学習に励み、卒業時点で高度な中国語運用能力を持てるよう努力できる人。
- イ. 外国語学習は多大な時間を要することを自覚し、入学後、学修意欲と学修習慣を確立することと、学修時間を最大限確保することのできる人。
- ウ. 協調心と集団意識をもち、周囲の学生や教員等と積極的に交流して良好な関係を保ち、明るい生活と学習環境や、相互学習の雰囲気を作り出すことに積極的である人。
- エ. 留学や海外インターンシップ、留学生との交流等による異文化摂取や、日本国内及び学内の文化活動等に積極的に参加する意欲のある人。

入学者選抜方法は、面接・プレゼンテーション等を重視する「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜」と、筆記で学力を審査する「一般選抜」の3種類を用意する。前者では、高校時代の様々な活動と日常の学習成果を多面的に評価する。後者では、言語を重視した筆記試験（読解力、文法知識、基本的な表現等を問う）を実施する。

学部等名 外国語学部 スペイン語学科

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl1-about.html>）

(概要)

世界で広く用いられているスペイン語の高い運用力とコミュニケーション能力を修得し、豊かな教養と異文化理解をもって国の内外で活躍できる人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl-about.html>）

(概要)

外国語学部 スペイン語学科
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

スペイン語学科は、実践的で正確なスペイン語力とコミュニケーション能力を持ち、世界的視野から本国と異なる文化を理解し、受け入れ、コミュニケーションを行いながら、世界の人々の交流に着実に貢献できる学生に学士（スペイン語）の学位を授与する。到達目標は以下のとおりである。

- ア. スペイン語に関する専門的知識を修得し、その知識を応用して正確なコミュニケーションを行う、あるいはその知識をスペイン語教育などの活動に活かす能力を身につける。
- イ. スペイン語力に関しては、社会生活での幅広い話題について自由に話ができ、明確かつ詳細に自分の意見を表現できる言語運用能力と論理力、知識を修得する。
- ウ. 第二外国語について、聴く・話す・読む・書くことができる言語運用能力と知識を修得する。
- エ. 修得した言語運用能力と、教養教育で培われた知識を活かし、異文化を理解、尊重し、世界の人々と協働して諸問題を解決しようとする姿勢を持つ。
- オ. 自ら目標を設定し、その目標を達成する過程の中で、自律的に学ぶ力を養う。

スペイン語学科は、通訳・翻訳の素養を持った学生を育て、高いスペイン語能力を駆使して文化交流、観光案内、ボランティアならびにビジネスにおけるさまざまな分野で活躍できる卒業生を送り出し、日本とスペイン語圏との良好な関係の構築と維持、ならびに日本の国際化に貢献する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl-about.html>）

(概要)

外国語学部 スペイン語学科
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

スペイン語学科は、言語並びに個別言語（スペイン語）の専門家を養成することを旨とする。

スペイン語を研究対象として見る眼を持ち、スペイン語を研究する方法を身に付け、知的活動に母語とスペイン語の運用力を活かし、母語文化圏とスペイン語文化圏の特性を理解し、相互理解と協調協働を可能とする力を

持った青年を育てることを念頭に教育課程を編成する。

このため、ヒューマン・コミュニケーションを重視した学修環境（人間関係）構築のため、オリエンテーション・キャンプを実施、ワールドカフェ方式討論会を組み入れたガイダンスや1年次生に上級生が文法の基礎ドリルを教えることによって上級生も共に知識の向上と定着を図る相互学習システムなど、効果的な教育方法を取り入れた教育課程を編成し、実施する。

ア. 教育課程を編成するにあたっての目的と具体的な方針

(ア) 実践的で正確なスペイン語の運用能力とコミュニケーションの能力の向上

専門科目は、大きく必修科目、選択科目Ⅰ及び選択科目Ⅱの三つの構成とする。各学年に配当する必修科目（初級・中級・上級）は、文法、会話、作文、講読などの言語運用と、言語や文化を学問として扱うための基礎から応用を構築するための科目群を編成する。

1年次から2年次にかけての初級・中級科目では、スペイン語の基礎文法や語彙など運用力の基本材料を効率よく提示・概観するとともに、スペイン語音声の自然なリズムとイントネーションの指導を通して実践的な表現力を養う。

これらの初級・中級科目は同時に、上級科目の入門を兼ねており、1年次科目においては動詞の活用を暗記、単語や熟語の学修といった知的単純作業と並行して、日本語やその他の言語との対照研究や、自分達で文法のルールを見つけ出して言葉で説明する練習にも取り組む。

3年次以降の上級科目は初級・中級科目と連携して、知的に高度な内容の議論や論述ができる力を養う授業科目を、講読・作文のほか、4年次配当の総合表現演習で編成する。

選択科目Ⅰは基本的なスペイン語・スペイン語圏文化に関する知識を、また選択科目Ⅱはコースに対応したやや高度な学術的知識を身に付けられるように科目を設定する。

(イ) スペイン語圏の文化や社会に関する幅広い知識と教養の修得と、社会人としての汎用技能の向上

スペイン語学科は、学生を系統的・効率的履修に誘導するため、「スペイン語コミュニケーションコース」と「スペイン語圏文化コース」の2コースを設定する。

これは2年次にいずれかを選択して以後の履修科目を決定するもので、スペイン語コミュニケーションコースは、スペイン語の運用とスペイン語学とに興味のある学生や、語学教師、言語研究者を目指す学生向けのコースとして設定する。音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、対照研究などスペイン語を学問の対象として研究する態度を涵養するとともに、読む、書く、話す、聞くというスペイン語の四技能をバランスよく学修できるように科目を配当する。

スペイン語圏文化コースは、スペイン語を使う人々の文化的背

景を総合的に学ぶコースで、異文化理解やスペイン語圏の社会事情などに興味のある学生向けに科目を配当する。地域研究や文学・歴史の研究を主体に、情報の受信発信のためのスキルを学び、並行してスペイン語の運用力にも磨きをかける教育課程を編成する。

3年次と4年次のゼミナールは、一貫履修を原則とし、ここの指導教員が提示するテーマに沿って、文字や音声による情報の取得、作文の技術、効果的な情報発信の仕方、翻訳法、文学作品の研究、スペイン語圏の文化などを専門科目と連携しつつ修得する。

幅広い教養の修得と社会人としての汎用技能の向上に必要とする教養教育科目やキャリア支援科目、情報リテラシー科目を設置する。

(ウ) 留学などの異文化体験を通じた、広い視野で多面的に物事を考え、協働することのできる人材の育成

スペインへの短期研修ならびにスペインとメキシコへの長期研修などの留学制度を設け、多くの学生が言語文化に直接触れる学修と実践の機会を活かすことができるように指導と支援を行う。

スペイン語以外の第二外国語科目を2年間にわたる必修科目として開講する。

さらに、第二外国語の修得にさらに力を入れる学生のために副専攻制度を設置する。

(エ) 自律的学修能力の育成

必修科目の能力別クラス編成やコース制による履修モデルの提示など、自律的学修能力を高めるカリキュラムを編成する。また、初年次の必修授業と、3・4年次のゼミナールにおいて、大学生としてふさわしい主体的・能動的な学修スタイルを修得させる。

初年次教育では、日本語による様々な表現法の訓練をする科目や本学の歴史、職業や防災に関連する基本的知識を修得させる科目を設置する。

イ. 学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、卒業認定・学位授与方針に沿った学修過程を重視しつつ、成績評価基準に基づき厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl-about.html>）

(概要)

**外国語学部 スペイン語学科
入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）**

スペイン語学科は母語の言語文化に強い興味と関心を持ち、スペイン語とスペイン語圏の文化にも同等の興味と関心を持つ人を積極的に受け入れる。次の要件のいくつかに該当することが望まれる。

<p>ア. スペイン語学科入学を希望する人で、国内外において学校教育による12年の課程を修了した人にとっては、いわゆる理系・文系・技術系・芸術系等の区別無く、その課程において開設されている全ての教科を履修していること。</p> <p>また、個々人の学修歴等から、学校教育による12年の課程を修了したものと同等以上の学力を有すると判断される人においては、あらゆる学問・技術・芸術の分野に興味を持続し、幅広い経験と知識を持っていること。</p> <p>イ. 日本語や英語その他の外国語や文化、また「言語」そのものに強い好奇心と興味を持っていること。</p> <p>ウ. 異文化体験や集団的な活動に積極的に参加した経験があること。</p> <p>入学者選抜方法は、面接・プレゼンテーション等を重視する「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜」と、筆記で学力を審査する「一般選抜」の3種類を用意する。前者では、高校時代の様々な活動と日常の学習成果を多面的に評価する。後者では、英語を重視した筆記試験（英文読解力、英文法知識、基本的な英会話表現等を問う）を実施する。</p>

<p>学部等名 外国語学部 国際日本語学科</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページに公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl-about.html）</p> <p>（概要）</p> <p>日本語についての知見をもとにした言語を通しての相互理解と発信する力、日本文化への洞察をもとにした社会的人間関係を構築し、発展させる力、そして、問題を発見し、思考するとともにコミュニケーションを通して解決する力を身につける。</p> <p>。 日本 の 言語、文化、社会への深い理解のうえに、優れた発信型の語学力と異文化コミュニケーション能力を有し、また、グローバルな視野と教養、実践力を身につけた、国内外の幅広い分野で活躍できる人材を育てる。</p> <p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl-about.html）</p> <p>（概要）</p> <p style="text-align: center;">外国語学部 国際日本語学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>国際日本語学科は、優れた言語運用の力と国際感覚とを持ち、自国の言語、文化、社会をしっかりと理解したうえで、他の文化を尊重し、相互理解に導く力を持った人となるよう、十分な教育・研究指導を行い、以下のような到達目標に達した者に対して学士（日本語）の学位を授与する。</p> <p>ア. 日本語の仕組みや働きについての専門的知識を修得し、その知識を活かして優れた日本語コミュニケーションを行う、あるいは、その知識を日本語教育などの活動に活かす能力を身につける。</p> <p>イ. 日本語及び選択した日本語以外の言語について、言語的に正しく使用</p>
--

できるというだけでなく、幅広い分野において知的コミュニケーションができる言語運用能力と知識・教養を修得する。

ウ. 自身の言語文化をよく理解したうえで、異文化にも親しみ、尊重する柔軟な姿勢をもって、国際社会で活躍できる能力を身につける。

エ. 修得した言語運用能力と知識を活かして、世界の人々と協働する態度と創造的、自律的に学ぶ力を基に、自己成長を続けていく能力を身につける。

国際日本語学科の教育課程を修め、上記の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、言語・文化の研究者、またその教育者として、あるいは、言語を運用し相互理解や便宜供与に係る公私にわたる様々な職業や活動の分野で、優れた能力を発揮することができる。そして、国際社会における日本語ならびに日本文化のさらなる地位向上に寄与することにより、わが国の世界に対する貢献の度合いを一層高める。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ffl-about.html>）

（概要）

外国語学部 国際日本語学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

国際日本語学科は、以下のような考えに基づき教育課程を編成し、実施する。

①教育課程の編成にあたっての重点目標と科目の位置づけについて

教育課程の編成にあたっては「卒業認定・学位授与の方針」に謳う人材育成のために、以下の4点を重視する。科目の配置においては、基礎から応用に向かう順次性、科目の目標・方法の系統性にも配慮する。

ア. 自律的学修能力の育成

1年次前期の「初年次教育ゼミナール」において、大学生らしい主体的・能動的な学修スタイルを理解し、実践できるように指導する。また、選択日本語Ⅱの科目群や「3年・4年ゼミナール」には、自ら課題を設定し、解決を模索する能動的学修の機会が多く、これらを通じて自律的学修能力を高める。「卒業論文」は自律的学修の集大成となる。

イ. グローバル思考の育成

1・2年次のうちに日本語・日本文化科目群の各科目により日本の文化・社会についての知見を深めるのと同時に1年次から3年次にかけて国際関係科目群を履修することで、日本および外国籍の学生にあつては学習者の母国・地域等と他の国々とを対比しつつ国際社会及び異文化について学修する。

また、日本人学生と外国人留学生がともに学ぶ学修環境の中で相互に異文化経験を積み、異文化への共感性を高められるようにする。

そのうえで、自身の国際交流・異文化体験と学科科目の学修を関連づけて考えられるようにするために、海外研修・留学プログラムへの積極的な参加を促す。

ウ. 有用かつ知的なコミュニケーション能力の育成

選択日本語Ⅰ・Ⅱの科目群の各科目で、日本語文法、文章表現法の理解を深めながら、さらに日本語の表現能力向上を目指す。同時に、国際関係科目群の科目で、国際社会におけるコミュニケーションの重要性について理解を深める。問題解決につながる有用なコミュニケーション能力の育成は、「3年・4年ゼミナール」などの能動的学修の大きな目標となる。

また、教養に裏打ちされた知的かつ文化的な豊かさを包含するコミュニケーションが展開できるよう、「日本語史」「国際日本語論」等の学修により日本語についての歴史的・社会的・文化的知識を深めるとともに、選択日本語Ⅱの科目群（「日本語表現演習」「日本語文化演習」等）では、文化的、社会的な話題を扱う実践練習を多く取り入れる。

エ. 豊かな人生の基盤づくり（キャリア形成を見据えた専門性と人間性の育成）

1・2年次に必修科目で専門的学修の基礎を学ぶとともに、選択科目Ⅱの日本語教育科目群と日本語・日本文化科目群の2つの科目群において、進路の選択にあった専門性を身につける。前者科目群においては、日本語教師として国内外の現場で活躍できるだけの知識と能力が身につくよう、教育方法についての理論と実践の科目を開講する。また、広く日本語・日本文化に関わる進路を目指す学生には、後者科目群の日本語・日本文化に関する科目を開講する。

加えて、人間、社会、自然と環境、コミュニケーション及び学際的の5系列からなる教養教育科目群により豊かな教養の基礎を築くとともに、キャリア支援科目や情報リテラシー科目により社会人としての汎用的技能の向上も目指す。

最後に、ゼミナールでの教員や他のゼミナール生との交流の中で人間関係を築き、これを維持・発展させる経験を積む中で、他者から信頼され、ときにリーダーシップを発揮しながら協働していける人格の形成を目指す。

②学修成果の評価について

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視しつつ、成績評価基準に基づき厳格に行う。さらにGPAを利用し評価、指導する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/ff1-about.html>）

(概要)

外国語学部 国際日本語学科
入学者受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

国際日本語学科は、国際社会という枠組みの中で日本語と日本文化とを学問の対象としてとらえ、分析研究することにより、日本の言語・文化・社会に対する正確な理解と深い教養を身につけた学生を育て、国内外の様々な分野で活躍する有為の青年を送り出すことを目的とする。

このため、国際日本語学科に入学を志望する場合、国籍を問わず、まず日本語をはじめとする諸言語と言語文化、言語を使用する社会と人々への高い関心を有することが必要であり、さらに以下のいずれかの要件に該当することとする。

- ア. 広く世界に活躍の場を求め、日本語や日本文化に関わる仕事を目指している者
- イ. 国内外での異文化体験をきっかけとして、言語や文化について強い関心を有する者
- ウ. 言語の構造、用法に関心を持ち、人々の言語活動を論理的に分析、理解してみたい者
- エ. 言語・文化の差異を理解したうえで、異文化間交流に積極的に参加、関与したい者

国際日本語学科での学修には、上記の関心、意欲、目標に加え、学修の基礎となる学力、つまり、大学入学までの12年間の教育課程において学修すべき内容を十分に理解し、修得していることが求められる。

なお、外国人にあっては、大学での学修に必要な基本的日本語運用能力のあることも求められる。

入学者選抜方法は、人物ならびに目的意識とそれを実現しうる学修意欲と能力を審査するための面接・プレゼンテーション等に重きをおく「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜」と、学力の審査に重点をおく「一般選抜」との三つのタイプを用意する。前者においては、それまでに学校の内外で得た知識や体験、資格も審査の対象とする。このような選抜試験を用意することで多様な背景、能力を有する学生を選抜できるようにする。また、入学者選抜方法は日本人向け、留学生向けをそれぞれ別に設け、実施する。

学部等名 工学部 機械システム工学科

教育研究上の目的 (公表方法: 本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html>)

(概要)

国際感覚と教養を身につけるとともに、機械システム工学に関する均整のとれた知識を修得し、社会と工学の発展に貢献できる人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: 本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html>)

(概要)

工学部 機械システム工学科
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

①卒業時までの到達目標

「工学に関する基礎から応用に至る「ものづくり」を重視した知識と技術能力を修得し、日本と国際社会の発展に貢献できる人材を育成する。」こととする工学部全体の人材の育成に関する目的を踏まえて、機械システム工学科では、国際感覚と教養を身につけるとともに、機械システム工学に関する均整のとれた知識を修得し、社会と工学の発展に貢献できる人材を育成するため、十分な教育を行い、以下の到達目標（知識・技能・態度等）に達した者に対して学士（工学）の学位を授与する。

ア. 教養・基礎学力の修得

専門的な知識のみでなく、学士として必要な教養を身につけている。また、工学的な技術の基礎となる理数分野の知識を身につけている。

イ. 専門知識・技術の修得

企業におけるエンジニアとして期待される人材養成のために設定された機械工学とその周辺技術の学修を通して幅広い視野を持ち、自らが進んで社会の発展のために貢献する気構えを身につけている。

機械部品の図面の読み描きや加工法について、基本的な能力と技術を身につけている。

機械工学の実験について、機器の操作や計測を円滑に行うことができ、観測された現象について工学的に考察できる能力を身につけている。

ウ. コミュニケーション能力の修得

グローバル化する社会の中で、機械工学の知識を生かしながら、コミュニケーションをとることのできる能力を身につけている。

なお、外国人留学生は、以上の能力に加え、日本文化の理解や就職に対応できる専門的な日本語能力を身につけている。

エ. 総合課題解決能力の修得

体系的に身につけた知識・技術を総合して問題を分析し、これを解決することができる能力を身につけている。

②卒業後の進路

同課程の教育課程を修め、以上の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、機械工学分野の設計、製造、保守・整備や新しい技術の研究開発の分野で、優れた能力を発揮することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html>）

(概要)

工学部 機械システム工学科
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

①教育課程の編成

工学部機械システム工学科の教育課程は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、「ものづくり」を基本とした技術者教育を目指し、以下の4点を重視した編成とし、これらの能力を身につけた人材を育成する。教養や基礎学力の育成や専門知識の育成は主に講義形態を、専門技術の育成やコミュニケーション能力の育成は、個人あるいは少人数のグループワークを含む演習、実験、実習形態を採用し、特に総合課題解決能力の育成は個人別のプロジェクトベースの形態により学修をすすめる。さらに、ロボットエンジニアや機械設計を含む幅広い機械工学分野の職業につながる順次性のある体系的な教育課程を編成する。

ア. 教養・基礎学力の育成

学士として必要な教養については、講義科目を中心とする共通の教養教育課程を通して育成を行う。

また、工学を学び、専門分野で働くために必要な理数系科目については、講義科目、実験科目を含む専門基礎科目を配置することによって育成を行う。

イ. 専門知識・技術の育成

実験と実習に重きを置き、コンピュータ技術を加味したカリキュラムの編成により、機械工学とその周辺技術の学修を通して幅広い視野を培い、自らが進んで社会の発展に貢献する人材を育成する。

ウ. コミュニケーション能力の育成

グループワークを取り入れた実験・実習科目により、専門知識を学びつつ周囲と協働できるコミュニケーション能力を持てるよう育成する。

また、外国語科目については、「読む、書く、聞く、話す」を学ぶ科目をバランスよく配置し、さらに発展科目を取り入れた科目編成により、国内だけでなく海外でも信頼される機械工学分野のエンジニアとして協働できるコミュニケーション能力を有する人材を育成する。

なお、外国人留学生は、以上の育成に加え、日本語、日本事情等の科目において、日本の文化や就職に対応できる専門的な日本語能力を向上させ、国内外の企業等で就職できるように育成する。

エ. 総合課題解決能力の育成

卒業研究において、機械工学分野における問題について課題設定を行い、主に専門知識や技術を用い、周囲とのコミュニケーションを図りながら、総合的に課題を解決する力を育成する。

②学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業

計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html>）

（概要）

工学部 機械システム工学科 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

①入学前に求められる能力、水準等

工学部機械システム工学科は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」を踏まえ、国際感覚と教養を身につけるとともに、機械システム工学に関する均整のとれた知識を修得し、機械工学分野の設計、製造、保守・整備や新しい技術の研究開発の分野で活躍する有為の人材を輩出することを目的とする。

このため、本学科に入学を希望する場合、本学科の目的及び研究分野に高い関心を持ち、さらに以下に示すアからウの要件に該当するものとする。

ア. 学習歴

高等学校等において理数系の科目を履修している。

外国人留学生は、入学前に日本語を学習している。

イ. 学力水準

大学での学修に必要な基礎学力の素養がある。

外国人留学生は、本学科の授業を受けるために必要とする日本語能力を身につけている。

ウ. 能力

機械システム工学分野の知識・技能を修得しようとする熱意を有し、修得した成果をもとに有用な工業製品を考案する思考力の柔軟性とその製品価値を見極めるための基礎的な判断力を兼ね備えていること。

②入学希望者に求められる能力、水準等の判定方法

入学者選抜では、人物ならびに目的意識とそれを実現しうる学修意欲、学習歴及び能力を審査するための面接・プレゼンテーション等に重点をおく「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜」と、学力水準の審査に重点をおく「一般選抜」の三つの方法により入学に求められる水準、能力等を判定する。前者においては、それまでに高等学校等で得た知識や体験、資格も審査の対象とする。

なお、外国人留学生の入学者選抜では、「外国人留学生選抜」を実施しているが、理数系科目の基礎学力と日本語能力の水準、そして当該分野の学修意欲を審査し判定する。

学部等名 工学部 電子システム工学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページに公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html ）
<p>（概要）</p> <p>現代社会を支える多様化した電子システムを開発・運用するために必要な知識と技術能力を修得し、国内外の発展に貢献できる人材を育成する。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html ）
<p>（概要）</p> <p style="text-align: center;">工学部 電子システム工学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>①卒業時までの到達目標</p> <p>「工学に関する基礎から応用に至る「ものづくり」を重視した知識と技術能力を修得し、日本と国際社会の発展に貢献できる人材を育成する。」こととする工学部全体の人材の育成に関する目的を踏まえて、電子システム工学科では、現代社会を支える多様化した電子システムを開発・運用するために必要な知識と技術能力を修得し、国内外の発展に貢献できる人材を育成するため、十分な教育を行い、以下の到達目標（知識・技能・態度等）に達した者に対して学士（工学）の学位を授与する。</p> <p>ア. 教養・基礎学力の修得</p> <p>工学における全般的な基礎知識を有し、社会の様々な要請に応えるための必要な教養を身につけている。</p> <p>また、工学的な技術の基礎となる理数分野の知識を身につけている。</p> <p>イ. 専門知識・技術の修得</p> <p>電子システム工学領域の全体に共通する基本的な知識と実践的な技術を身につけている。また、電子システム工学の各領域における専門的な知識を身につけている。</p> <p>ウ. コミュニケーション能力の修得</p> <p>グローバル化する社会の中で、電子工学の知識を生かしながら、コミュニケーションをとることのできる能力を身につけている。また、自ら考え抜く力を培い、自分の考えを的確に表現することができる能力を身につけている。</p> <p>なお、外国人留学生は、以上の能力に加え、日本文化の理解や就職に対応できる専門的な日本語能力を身につけている。</p> <p>エ. 総合課題解決能力の修得</p> <p>体系的に身につけた知識・技術を総合して問題を分析し、これを解決することができる能力を身につけている。</p> <p>②卒業後の進路</p> <p>同課程の教育課程を修め、以上の到達目標に十分達したと認められた</p>

学位取得者は、電子情報通信工学分野の設計、生産、保守・整備や新しい技術の研究開発の分野で、優れた能力を発揮することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html>）

（概要）

工学部 電子システム工学科
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程の編成

工学部電子システム工学科の教育課程は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、「ものづくり」を基本とした技術者教育を目指し、以下の4点を重視し編成する。教養や基礎学力の育成や専門知識の育成は主に講義形態を、専門技術の育成やコミュニケーション能力の育成は、個人あるいは少人数のグループワークを含む演習、実験、実習形態を採用し、特に総合課題解決能力の育成は個人別のプロジェクトベースの形態により学修をすすめる。さらに、電気通信エンジニアや回路設計を含む幅広い電子工学分野の職業につながる順次性のある体系的な教育課程を編成する。

ア. 教養・基礎学力の育成

学士として必要な教養については、講義科目を中心とする共通の教養教育課程を通して育成を行う。

また、工学を学び、専門分野で働くために必要な理数系科目については、講義科目、実験科目を含む専門基礎科目を配置することによって育成を行う。

イ. 専門知識・技術の育成

1年次より回路やコンピュータの基礎を学修すると共に実習を行い、2年次以降の専門科目の学修が円滑に進むよう配慮したカリキュラムの編成により、全員が一定の知識・技能を身に付けた人材を育成する。

ウ. コミュニケーション能力の育成

グループワークを取り入れた実験・実習科目により、専門知識を学びつつ周囲と協働できるコミュニケーション能力を持てるよう育成する。

また、外国語科目については、「読む、書く、聞く、話す」を学ぶ科目をバランスよく配置し、さらに発展科目を取り入れた科目編成により、国内だけでなく海外でも信頼される電子工学分野のエンジニアとして協働できるコミュニケーション能力を有する人材を育成する。

なお、外国人留学生は、以上の育成に加え、日本語、日本事情等の

科目において、日本の文化や就職に対応できる専門的な日本語能力を向上させ、国内外の企業等で就職できるように育成する。

エ. 総合課題解決能力の育成

卒業研究において、電子工学分野における問題について課題設定を行い、主に専門知識や技術を用い、周囲とのコミュニケーションを図りながら、総合的に課題を解決する力を育成する。

②学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html>）

（概要）

工学部 電子システム工学科 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

①入学前に求められる能力、水準等

工学部電子システム工学科は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」を踏まえ、現代社会を支える多様化した電子システムを開発・運用するために必要な知識と技術能力を修得し、電子情報通信工学分野の設計、生産、保守・整備や新しい技術の研究開発の分野で活躍する有為の人材を輩出することを目的とする。

このため、本学科に入学を希望する場合、本学科の目的及び研究分野に高い関心を持ち、さらに以下に示すアからウの要件に該当するものとする。

ア. 学習歴

高等学校等において理数系の科目を履修している。
外国人留学生は、入学前に日本語を学習している。

イ. 学力水準

大学での学修に必要な基礎学力の素養がある。
外国人留学生は、本学科の授業を受けるために必要とする日本語能力を身につけている。

ウ. 能力

電子システム工学分野の知識・技術を修得しようとする熱意を有する。回路、通信、計測、制御、材料等エレクトロニクスの主要分野、及びこれらを支えるプログラミング技術とシステム構成（応用）技術について強い関心を持ち、社会に貢献したい、ならびに国際社会で活躍したいという熱意を持つ。

②入学希望者に求められる能力、水準等の判定方法

入学者選抜では、人物ならびに目的意識とそれを実現しうる学修意欲、学習歴及び能力を審査するための面接・プレゼンテーション等に重点をおく「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜」と、学力水準の審査に重点をおく「一般選抜」の三つの方法により入学に求められる水準、能力等を判定する。前者においては、それまでに高等学校等で得た知識や体験、資格も審査の対象とする。

なお、外国人留学生の入学者選抜では、「外国人留学生選抜」を実施しているが、理数系科目の基礎学力と日本語能力の水準、そして当該分野の学修意欲を審査し判定する。

学部等名 工学部 情報工学科

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html>）

（概要）

情報社会及び多彩な産業分野におけるコンピュータ活用技術を身につけ、情報システムの構築並びに情報サービスの発展に貢献できる人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html>）

（概要）

工学部 情報工学科
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

①卒業時までの到達目標

「工学に関する基礎から応用に至る「ものづくり」を重視した知識と技術能力を修得し、日本と国際社会の発展に貢献できる人材を育成する。」こととする工学部全体の人材の育成に関する目的を踏まえて、情報工学科では、情報社会及び多彩な産業分野におけるコンピュータ活用技術を身につけ、情報システムの構築並びに情報サービスの発展に貢献できる人材を育成するため、十分な教育を行い、以下の到達目標（知識・技能・態度等）に達した者に対して学士（工学）の学位を授与する。

ア. 教養・基礎学力の修得

情報モラル、倫理を理解し、実践することができ、専門的知識を支える情報の収集、分析、表現能力を身につけている。また、情報分野とも関わりがある文化、歴史、社会などの教養を身につけている。

また、工学的な技術の基礎となる理数分野の知識を身につけている。

イ. 専門知識・技術の修得

- ・ソフトウェア、ハードウェア、ネットワークなどの情報工学の基礎知識や、AI、IoT、データサイエンス、サイバーセキュリティなどの応用分野の知識を身につけている。

- ・情報システム／サービスに関する仕様や構造が理解でき、構築や運用ができる能力を身につけている。

- ・情報システムを用いた問題解決のためのプログラミング技術を身につけている。

ウ. コミュニケーション能力の修得

グローバル化する社会のなかで、個人またはチームとして、システム開発やサービス運用をするためのコミュニケーション能力を身につけている。

なお、外国人留学生は、以上の能力に加え、日本文化の理解や就職に対応できる専門的な日本語能力を身につけている。

エ. 総合課題解決能力の修得

体系的に身につけた知識・技術を総合して問題を分析し、これを解決することができる能力を身につけている。

②卒業後の進路

本学科の教育課程を修め、以上の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、情報工学・コンピュータサイエンス分野の開発、設計、製造、サービスやAI、IoT、データサイエンス、サイバーセキュリティなどの新しい技術の研究開発の分野で、優れた能力を発揮することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html>）

（概要）

工学部 情報工学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程の編成

工学部情報工学科の教育課程は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、理工系学部情報系学科のためのコンピュータサイエンス教育を基本とした科目構成に加えて、実践的な演習科目を中心として、以下の4点を重視し編成する。教養や基礎学力の育成や専門知識の育成は主に講義形態を、専門技術の育成やコミュニケーション能力の育成は、個人あるいは少人数のグループワークを含む演習、実験、実習形態を採用し、特に総合課題解決能力の育成は卒業研究において個人別のプロジェクトベースの形態により学修をすすめる。さらに、システムエンジニア、プログラマやAI、IoT、データサイエンス、サイバーセキュリティなどの新しい技術を含む幅広い情報工学分野の職業につながる順次性のある体系的な教育課程を編成する。

ア. 教養・基礎学力の育成

学士として必要な教養については、講義科目を中心とする共通の教養教育課程を通して育成を行う。

また、工学を学び、専門分野で働くために必要な理数系科目については、講義科目、実験科目を含む専門基礎科目を配置することによって育成を行う。

イ. 専門知識・技術の育成

情報処理学会が定める情報工学カリキュラム標準に基づいた上

で、多様な応用分野の履修を可能とするカリキュラム編成により、視野の広い人材を育成する。

ウ. コミュニケーション能力の育成

グループワークを取り入れた実験・実習科目により、専門知識を学びつつ周囲と協働できるコミュニケーション能力を持てるよう育成する。

また、外国語科目については、「読む、書く、聞く、話す」を学ぶ科目をバランスよく配置し、さらに発展科目を取り入れた科目編成により、国内だけでなく海外でも信頼される情報工学分野のエンジニアとして協働できるコミュニケーション能力を有する人材を育成する。

なお、外国人留学生は、以上の育成に加え、日本語、日本事情等の科目において、日本の文化や就職に対応できる専門的な日本語能力を向上させ、国内外の企業等で就職できるように育成する。

エ. 総合課題解決能力の育成

卒業研究において、情報工学分野における問題について課題設定を行い、主に専門知識や技術を用い、周囲とのコミュニケーションを図りながら、総合的に課題を解決する力を育成する。

②学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html>）

（概要）

工学部 情報工学科 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

①入学前に求められる能力、水準等

工学部情報工学科は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」を踏まえ、情報社会及び多彩な産業分野におけるコンピュータ活用技術を身につけ、情報システムの構築並びに情報サービスの発展に貢献できる人材を育成し、情報工学・コンピュータサイエンス分野の開発、設計、製造、サービスやAI、IoT、データサイエンス、サイバーセキュリティ等の新しい技術の研究開発の分野で活躍する有為の人材を輩出することを目的とする。

このため、本学科に入学を希望する場合、本学科の目的及び研究分野に高い関心を持ち、さらに以下に示すアからウの要件に該当するものとする。

ア. 学習歴

高等学校等において理数系の科目を履修している。
外国人留学生は、入学前に日本語を学習している。

イ. 学力水準

大学での学修に必要な基礎学力の素養がある。

外国人留学生は、本学科の授業を受けるために必要とする日本語能力を身につけている。

ウ. 能力

情報工学分野の知識・技術を修得して、それを応用し新しい分野を開拓しようとする熱意を有すること。

②入学希望者に求められる能力、水準等の判定方法

入学者選抜では、人物ならびに目的意識とそれを実現しうる学修意欲、学習歴及び能力を審査するための面接・プレゼンテーション等に重点をおく「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜」と、学力水準の審査に重点をおく「一般選抜」の三つの方法により入学に求められる水準、能力等を判定する。前者においては、それまでに高等学校等で得た知識や体験、資格も審査の対象とする。

なお、外国人留学生の入学者選抜では、「外国人留学生選抜」を実施しているが、理数系科目の基礎学力と日本語能力の水準、そして当該分野の学修意欲を審査し判定する。

学部等名 工学部 デザイン学科

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html>）

（概要）

工学における「ものづくり」を基盤に、デザイン提案に必要な知識と技術能力を身につけ、生活文化の発展に貢献できる人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html>）

（概要）

工学部 デザイン学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

①卒業時までの到達目標

「工学に関する基礎から応用に至る「ものづくり」を重視した知識と技術能力を修得し、日本と国際社会の発展に貢献できる人材を育成する。」こととする工学部全体の人材の育成に関する目的を踏まえて、デザイン学科では、工学における「ものづくり」を基盤に、デザイン提案に必要な知識と技術能力を身につけ、生活文化の発展に貢献できる人材を育成するため、十分な教育を行い、以下の到達目標（知識・技能・態度等）に達した者に対して学士（工学）の学位を授与する。

ア. 教養・基礎学力の修得

デザインに関わる専門力の基盤となる教養と基礎学力を身につけている。

また、工学的な技術の基礎となる理数分野の知識を身に付けている。

イ. 専門知識・技術の修得

デザイナーとして活躍するために必要なデザイン分野の基本的知識を備え、自ら創出したアイデアを具現化する基本的技術を身につけている。

また、デザインの社会的役割を理解し、感性、生活、プロダクト、メディアをキーワードとしたデザイン分野のより専門的な知識・スキルを身につけ、それを応用し、展開する能力を身につけている。

ウ. コミュニケーション能力の修得

自ら創出したアイデアを第三者に伝えるための表現力と伝達力を身につけ、グローバル化する社会の中で協働することができる能力を身につけている。

なお、外国人留学生は、以上の能力に加え、日本文化の理解や就職に対応できる専門的な日本語能力を身につけている。

エ. 総合課題解決能力の修得

デザイン領域の広がりや社会的意義を理解し、身につけた知識や技術、応用・展開する力、表現・伝達・協働する力を統合して、デザイン分野の課題解決に取り組むことができる能力を身につけている。

②卒業後の進路

同課程の教育課程を修め、以上の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、デザイン分野の創作、設計、製造、サービスや新しい技術の研究開発の分野で、優れた能力を発揮することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html>）

（概要）

工学部 デザイン学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

①教育課程の編成

工学部デザイン学科の教育課程は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、多様なデザイン領域の中から学生の個性や能力に応じた選択肢を準備し、基礎と専門の知識と技術を修得できるように、以下の4点を重視し編成する。教養や基礎学力の育成や専門知識の育成は主に講義形態を、専門技術の育成やコミュニケーション能力の育成は、個人あるいは少人数のグループワークを含む演習、実験、実習形態を採用し、特に総合課題解決能力の育成は個人別のプロジェクトベースの形態により学修をすすめる。さらに、各種デザイナーや企画・設計者を含む幅広いデザイン分野の職業につながる順次性のある体系的な教育課程を編成する。

ア. 教養・基礎学力の育成

学士として必要な教養については、講義科目を中心とする共通の教養教育課程を通して育成を行う。

また、工学を学び、専門分野で働くために必要な理数系科目については、講義科目、実験科目を含む専門基礎科目を配置することによって育成を行う。

イ. 専門知識・技術の育成

バランスよく配された講義と演習で、デザインに関わる理論とスキルを体験的に学修し、情報工学科との共同開講による多様な応用分野の履修を可能とするカリキュラム構成で、視野の広い人材を育成する。

ウ. コミュニケーション能力の育成

グループワークを取り入れた演習・実習科目により、専門知識を学びつつ周囲と協働できるコミュニケーション能力を持てるよう育成する。

また、外国語科目については、「読む、書く、聞く、話す」を学ぶ科目をバランスよく配置し、さらに発展科目を取り入れた科目編成により、国内だけでなく海外でも信頼されるデザイン分野のエンジニアとして協働できるコミュニケーション能力を有する人材を育成する。

なお、外国人留学生は、以上の育成に加え、日本語、日本事情等の科目において、日本の文化や就職に対応できる専門的な日本語能力を向上させ、国内外の企業等で就職できるように育成する。

エ. 総合課題解決能力の育成

卒業研究において、デザイン分野における問題について課題設定を行い、主に専門知識や技術を用い、周囲とのコミュニケーションを図りながら、総合的に課題を解決する力を育成する。

②学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/feng-about.html>）

(概要)

工学部 デザイン学科 入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

①入学前に求められる能力、水準等

工学部デザイン学科は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」を踏まえ、工学における「ものづくり」を基盤に、デザイン提案に必要な知識と技術能力を身につけ、生活文化の発展に

貢献できる人材を育成し、デザイン分野の創作、設計、製造、サービスや新しい技術の研究開発の分野で活躍する有為の人材を輩出することを目的とする。

このため、本学科に入学を希望する場合、本学科の目的及び研究分野に高い関心を持ち、さらに以下に示すアからウの要件に該当するものとする。

ア. 学習歴

高等学校等において理数系または芸術系の科目を中心に教育課程を幅広く履修している。

外国人留学生は、入学前に日本語を学習している。

イ. 学力水準

大学での学修に必要な基礎学力の素養がある。

外国人留学生は、本学科の授業を受けるために必要とする日本語能力を身につけている。

ウ. 能力

デザインに強い興味・関心を持ち、デザイン分野の知識・技術の修得に自ら取組む主体性を有し、身の回りや社会に貢献したいという熱意と行動力を有する。また、積極的に視野を広げ、さまざまな人々と協働できるコミュニケーション力を持つ。

②入学希望者に求められる能力、水準等の判定方法

入学者選抜では、人物ならびに目的意識とそれを実現しうる学修意欲、学習歴及び能力を審査するための面接・プレゼンテーション等に重点をおく「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜」と、学力水準の審査に重点をおく「一般選抜」の三つの方法により入学に求められる水準、能力等を判定する。前者においては、それまでに高等学校等で得た知識や体験、資格も審査の対象とする。

なお、外国人留学生の入学者選抜では、「外国人留学生選抜」を実施しているが、理数系及び芸術系科目の基礎学力と日本語能力の水準、そして当該分野の学修意欲を審査し判定する。

学部等名 国際学部 国際学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページに公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fis-about.html ）
（概要） 諸外国の言語、文化、民族、政治経済システムを理解し、国際協力、国際経済、国際政治、国際文化、国際観光、農業総合、国際スポーツの7つの分野におけるグローバル化した社会の諸課題に取り組み、その解決に貢献できる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。 https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fis-about.html ）
（概要） <p style="text-align: center;">国際学部 国際学科</p>

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国際学部国際学科の7コースでは以下に示す教育目標を掲げている。

- (1) **国際協力コース**
開発途上国及び新興国への協力の在り方及びその改善策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (2) **国際経済コース**
世界がともに経済発展を遂げるための具体的な方策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (3) **国際政治コース**
紛争や対立を解決に導く平和・安全保障の未来形を提示し、これを実現する方策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (4) **国際文化コース**
歴史や文化への理解をもとに世界とコミュニケーションする方法を学びこれを積み上げていく方策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (5) **国際観光コース**
大交流時代に相応しい観光の在り方とそれを実現する方策を考案できる専門的知識と能力の修得
- (6) **農業総合コース**
農業ビジネス・環境保全・農村開発の推進役としてとるべき具体的な行動プランを考案できる専門的知識と能力の修得
- (7) **国際スポーツコース**
スポーツを通じた国際交流や社会貢献活動を考案し、それを実行できる能力の修得

国際学部国際学科では、基礎科目、外国語科目、専門共通科目、上記の各コース専門科目、及び自由科目の所定単位を修得することで、①三つの力（基礎知識、コミュニケーション力、実践力）を身につけ、②各コースの専門的知識を体系的に修得し、この知識・技能を駆使して、③各コースに関わる国際社会的課題を自ら設定し、必要な情報の収集・分析を行い、他者と協調・協働しながら、その課題を解決できる能力を身につけたと認められる学生に対して、卒業を認定し学士（国際開発）の学位を授与する。

国際学部国際学科の教育課程を修め、以上の教育目標に十分達したと認められた学位取得者は、国際的なビジネスを展開する企業（貿易・商社、金融・証券、メーカー、観光、農業、スポーツ）や国際協力・交流に取り組む国際機関・団体などの職業で、優れた能力を発揮できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。
<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/fis-about.html>）

(概要)

国際学部 国際学科
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

国際学部国際学科では次のとおり、「教育課程編成・実施の方針」を定めて、これに基づき、教育課程を編成し、実施する。

ア. 教育課程を編成するにあたっての目的と具体的な方針

国際学部国際学科では、「卒業認定・学位授与の方針」を達成するために教育課程を編成する。具体的には三つの力（基礎知識、コミュニケーション力、実践力）と、各コースの専門的知識の体系的な修得を通して、グローバル化時代に活躍できる人材の育成を目指す。そのために、基礎知識、コミュニケーション力と実践力を身につける科目や専門知識を養う科目を、年次進行に合わせ順次的・体系的に配置する。

基礎知識を養う科目として、教養科目に加え、基礎的アカデミックスキル、言語処理、数理処理にかかわる科目を1年次から2年次にかけて配置する。

コミュニケーション力を養う科目として外国語科目を設置する。外国語科目は英語に加え、第二外国語の履修を1年次から2年間必修とする。日本人の学生は、第二外国語として、主にアジア諸国の言語の中から一言語選択して2年間学修する。外国人留学生は第二外国語として日本語を学修する。さらに3年次以降も外国語の学修を継続できるように、上級科目を置く。

実践力を養うために、学生の海外留学・国内研修・ボランティア活動やキャリア教育を支援する。

専門知識については、1年次にグローバル人材育成のための入門科目と各コースの入門科目を配置する。2年次は基礎から専門への移行期と位置づけ、専門共通科目とコース専門科目(必修)を配置する。3年次以降はコース専門科目(選択)の履修を通じて、さらに各コースの教育目標に必要な知識を修得させる。

なお、2年、3年、4年と3年間かけて履修する専門ゼミナールでは、少人数教育の枠組みで、上記基礎知識、コミュニケーション力、実践力、専門知識の育成を組織的に進め、卒業論文でその集大成を行う。

以上のように、専門的知識の体系的な理解、社会生活に必要な汎用的技能、主体的学修能力、実社会での課題発見・解決能力を身につけることができる教育課程を編成する。

イ. 学修成果の評価

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、卒業認定・学位授与方針に沿った学修過程を重視しつつ、成績評価基準に基づき厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページに公表している。）

(概要)

国際学部 国際学科
入学者受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

①入学前に求められる能力、水準等

国際学部国際学科は、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」を踏まえ、アジア、アフリカ、中南米を中心に国際社会への関心を持ち、三つの力（基礎知識、コミュニケーション力、実践力）を身につけ、選択したコースの専門的知識を体系的かつ実践的に修得する機会を提供する。これにより、グローバル化された社会が目指している SDGs(持続可能な開発目標)を達成する時代に活躍できる人材の育成を目指している。

そのために外国語によるコミュニケーション力を修得して、授業と留学や研修等を通じて海外や国内の事情を学び実践力を身につける。さらに次の各要件を満たしている学生を求める。

ア. 学習歴

高等学校での教育課程(相当)を幅広く学習している。さらに外国人留学生は、入学前に日本語を学習している。

イ. 学力水準

国際学の領域を学修するために必要となる、高等学校で修得すべき基礎的な知識、言語運用能力、論理的思考能力及び社会的適応能力を身につけている。さらに外国人留学生は、授業を受けるために必要な水準の日本語能力を身につけている。

ウ. 能力・関心

(ア) 国際社会に関心を持っている。特にアジア、アフリカ、中南米等、特定の国・地域に深い関心を持っている。

(イ) 人、文化、社会等の多様性を理解・尊重できる。また、多様な考え方も理解できる。

(ウ) 国際学部国際学科の学びをよく理解し、目的意識をもって大学の活動に積極的に参加し、自身の目標を実現するための方向性を自ら考えて示す力を身につけている。

②入学希望者に求められる能力、水準等の判定方法

入学者選抜方法は、人物ならびに目的意識とそれを実現しうる学修意欲と経験・能力を審査するための面接・プレゼンテーション等に重点をおく「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜」と、学力水準の審査に重点をおく「一般選抜」の三つに大きく分かれ、各々の区分において入学に求められる水準、能力等を個別に審査・判定する。前者においては、高等学校在学中の国内外での活動実績、留学、資格取得も審査の対象とする。

外国人留学生についても同様に、「外国人留学生選抜（自己推薦）」「学校推薦型選抜」及び「一般選抜」に分かれている。「外国人留学生選抜（自

己推薦)」及び「学校推薦型選抜」では本学部を第1志望とする強い学修意欲、学習歴、活動実績及び能力の審査に重点をおき、「一般選抜」では学力水準の審査に重点をおいて判定する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページに公表している。

<https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/disclosure/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
商学部	—	36人	13人	0人	1人	0人	50人
政経学部	—	33人	17人	0人	5人	0人	55人
外国語学部	—	21人	8人	0人	2人	0人	31人
工学部	—	33人	17人	0人	2人	0人	52人
国際学部	—	26人	5人	0人	0人	0人	31人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		452人					452人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法：本学ホームページに公表している。 https://syllabus.takushoku-u.ac.jp/						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、本学の教育目標を達成するために、教職員が協働して、教育の質及び教育能力を向上させるとともに教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化を図ることを目的として、拓殖大学FD委員会規程に基づき、副学長、各学部長等で構成する全学委員会「拓殖大学FD委員会」を設置し、FD活動を推進している。また、学部・研究科においては、FD委員会の構成員等を中心に、それぞれの学部・研究科でのFD活動を推進している。なお、FD委員会と学部・研究科とは常に有機的に連携し、FD活動における質の向上を図っている。</p> <p>FD委員会では、全ての教員の教育能力・資質の改善・向上、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化を図るため、FDワークショップ（学部・大学院）を毎年度実施している。また、授業内容・方法等の改善を図るため、「授業改善のための学生アンケート」の実施・結果活用、講義要項チェックシステムの導入、「学修行動調査」及び「卒業・修了時実態調査」の結果に基づく検証等を積極的に実施している。</p> <p>FDワークショップについては、平成13（2001）年から全学的に取り組んでいる。当初、各学部におけるFD取組状況を踏まえて、学部間の情報交換を行うことからはじまったが、その後、大学として組織的に対応すべき具体的な問題点を主要なテーマとして「多様で魅力的な授業展開の在り方」「105分授業の振り返り」「生成AIと高等教育機関におけるその活用法」などを設定し、全学的な検討を行う場となっている。ここでテーマとなった問題点・課題については、次年度以降に改善へと実行に移している。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
商学部	645人	696人	107.9%	2580人	2695人	104.5%	0人	4人
政経学部	703人	760人	108.1%	2812人	2867人	102.0%	0人	6人
外国語学部	280人	213人	76.1%	1120人	853人	76.2%	0人	2人
工学部	345人	334人	96.8%	1355人	1378人	101.7%	0人	5人
国際学部	350人	342人	97.7%	1400人	1256人	89.7%	0人	0人
合計	2323人	2345人	101.0%	9267人	9049人	97.7%	0人	17人

(備考)

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
商学部	577人 (100%)	23人 (4.0%)	488人 (84.6%)	66人 (11.4%)
政経学部	708人 (100%)	21人 (3.0%)	590人 (83.3%)	97人 (13.7%)
外国語学部	221人 (100%)	9人 (4.1%)	179人 (81.0%)	33人 (14.9%)
工学部	286人 (100%)	27人 (9.4%)	245人 (85.6%)	14人 (4.9%)
国際学部	289人 (100%)	16人 (5.5%)	228人 (78.9%)	45人 (15.6%)
合計	2,081人 (100%)	96人 (4.6%)	1,730人 (83.1%)	255人 (12.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
拓殖大学大学院、横浜国立大学大学院、青山学院大学大学院、立命館大学大学院、明治大学大学院、関西大学大学院、多摩大学大学院、航空大学校				
警視庁、海上保安庁、東京消防庁、東京国税局、防衛省(陸・海)、自衛隊(陸・海・空)、宮城県庁、徳島県庁、東京都教育委員会、厚生労働省群馬労働局、JAL スカイ、JR 東日本、東京地下鉄、ANA 成田エアポートサービス、SMBC 日興証券、三菱UFJ モルガン・スタンレー証券、ゆうちょ銀行、りそな銀行、日本生命保険、伊藤忠テクノソリューションズ、帝国データバンク、Sky、東計電算、日立社会情報サービス、大塚商会、TOTO、コニカミノルタジャパン、京セラ、セイコーエプソン、三井不動産リアルティ、野村不動産ソリューションズ、積水ハウス、クボタ、三菱電機ビルソリューションズ、神奈川トヨタ自動車、明星食品、ゴディバジャパン、エイチ・アイ・エス、星野リゾート、ウェスティンホテル東京、日本医科大学、東京都立科学技術高等学校				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
商学部	602人 (100%)	521人 (86.5%)	33人 (5.5%)	48人 (8.0%)	人 (%)
政経学部	685人 (100%)	606人 (88.4%)	36人 (5.3%)	43人 (6.3%)	人 (%)
外国語学部	262人 (100%)	206人 (78.6%)	33人 (12.6%)	23人 (8.8%)	人 (%)
工学部	320人 (100%)	262人 (81.9%)	23人 (7.2%)	35人 (10.9%)	人 (%)
国際学部	325人 (100%)	266人 (81.8%)	22人 (6.8%)	37人 (11.4%)	人 (%)
合計	2194人 (100%)	1861人 (84.8%)	147人 (6.7%)	186人 (8.5%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>本学の講義要項（シラバス）は、毎年度4月から本学ホームページに掲載し、予め学生に周知している。全学統一の様式により、記載項目を「科目名」「英文科目名」「担当教員名」「開講キャンパス」「科目ナンバリング」「ディプロマ・ポリシー（DP）キーワード」「授業形態」「授業の目的及び到達目標」「授業計画」「授業の方法」「予習・復習」「成績評価の方法」「教科書・参考書」「関連する科目」「当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）」の構成としている。</p> <p>単位制度の本来の趣旨を踏まえ、学生の主体的な学修を促す仕組みとして予習・復習に必要な時間・内容や課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法を講義要項に明記している。また、学生に自らの課程を通じた学修成果を把握させるために、「卒業認定・学位授与の方針」と当該科目との対応関係も併記している。さらに、個々の授業科目の記載内容が適正であるかといった観点から組織的に検討を行うため、第三者が精査する講義要項（シラバス）のチェック体制を整えている。この講義要項は、学生が年間または4年間の履修計画、学修計画を立てる際や授業科目を選択する際に活用されている。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
<p>本学では、成績評価を客観的かつ厳格に行うことを目的として、次のとおり、GPAの基準を用いて「成績不振学生の面接」を行うこと、学科目別の成績評価分布の状況を把握し公表したうえで、教員間又は授業科目間の平準化を目指した「成績評価基準」（成績評価分布の目安）を定めるなどの取組を行っている。</p>

履 修 要 項 (抜粋)

(1) 教員間又は授業科目間の平準化を目指した「成績評価基準」等

①試験問題やレポートの難易度は、客観的な評価となるよう工夫し予め70から80点程度の平均点となるように努めます。

②成績評価は、学期試験、レポート、小テスト、授業への参加度など、多元的かつ総合的に評価することを奨励し、その個々の評価点の割合を講義要項で示します。

③成績評価基準は、極端な偏りの評価が行われないよう、学科目別成績評価分布表の平均値を踏まえ、下表のとおり、評価の分布(目安)となるように努めます。

○成績評価基準(評価分布の目安)

評 価	素 点	評価の分布(目安)
S	100~90点	20%程度
A	89~80点	20~30%程度
B	79~70点	20~30%程度

※C・Fの評価の分布の目安は「学科目別成績評価分布」の平均値を考慮します。

※ただし履修者20人以下及び習熟度別クラスの科目は対象から除きます。

さらに、「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」において、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視し、「成績評価基準」に基づき厳格に行うことを明記している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
商学部	経営学科	126 単位	有・無	半期 22 単位
	国際ビジネス学科	126 単位	有・無	半期 22 単位
	会計学科	126 単位	有・無	半期 22 単位
政経学部	法律政治学科	126 単位	有・無	年間 44 単位
	経済学科	126 単位	有・無	年間 44 単位
外国語学部	英米語学科	126 単位	有・無	年間 44 単位
	中国語学科	126 単位	有・無	年間 44 単位
	スペイン語学科	126 単位	有・無	年間 44 単位
	国際日本語学科	126 単位	有・無	年間 44 単位
工学部	機械システム工学科	124 単位	有・無	年間 48 単位
	電子システム工学科	124 単位	有・無	年間 48 単位
	情報工学科	124 単位	有・無	年間 48 単位
	デザイン学科	124 単位	有・無	年間 48 単位
国際学部	国際学科	124 単位	有・無	年間 48 単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法: 本学ホームページにて公表 https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/president/GPA-2.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法: 本学ホームページにて公表 https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/president/learningbehavior.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページにて公表

1. 学生の教育研究環境

(1) 文京キャンパス

<https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/bunkyo-campus.html>

(2) 八王子国際キャンパス

<https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/hachioji-campus.html>

(3) 図書館

<https://www.takushoku-u.ac.jp/library/>

(4) 図書館（利用案内）

https://www.takushoku-u.ac.jp/library/files/library_service_guide_2024.pdf

(5) 教育情報関連の施設・設備

<https://www.takushoku-u.ac.jp/ebook/1/campuslife2024//?page=60>

(6) 実験実習工場

<https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/factory/>

(7) 研修施設

https://www.takushoku-u.ac.jp/campus_life/training_facility/

(8) 学生食堂

https://www.takushoku-u.ac.jp/campus_life/student-cafeteria/

(9) 学生寮

https://www.takushoku-u.ac.jp/campus_life/dormitory.html

2. 校地・建物、構築物・機器備品、図書・車輛

<https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/disclosure/school-sites-etc.html>

3. 交通アクセス

<https://www.takushoku-u.ac.jp/access.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
商学部	全学科	792,000円	200,000円	290,000円	施設設備資金
政経学部	全学科	792,000円	200,000円	290,000円	施設設備資金
外国語学部	全学科	907,000円	200,000円	230,000円	施設設備資金
工学部	全学科	1,000,000円	200,000円	430,000円	施設設備資金
国際学部	全学科	907,000円	200,000円	230,000円	施設設備資金

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>授業時間外にインターネットを利用してキャンパスや自宅からパソコンでアクセスすることにより予習・復習ができる学習支援システムを全学的に導入するなど学生の自主的な学習を促進するための支援に取り組んでいる。</p> <p>また、学部レベルでも、簿記・会計能力、日本語能力の補習・向上、及び論文の書き方指導を目的とした商学部・政経学部「学習支援室」(文京キャンパス)を、専攻言語の運用能力の向上を目的とした外国語学部「語学サロン」(八王子国際キャンパス)を、基礎学力向上を目的とした「工学部学習支援センター」(八王子国際キャンパス)を、英語運用能力の向上を目的とした国際学部「英語サロン」(八王子国際キャンパス)をそれぞれ開設している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>1. 各学部教員と就職部職員との連携</p> <p>就職キャリアセンター会議、各学部の就職委員会、インターンシップ実行委員会、社会人基礎力育成会議の4つの会議を組織し、教員と就職部が連携して学生のキャリア支援を行う環境を整えている。教員は日頃の授業やゼミナールを通じて就業力を育成し、就職部は様々なプログラムや個別相談を実施して一人ひとりの学生たちの将来を見据えたキャリア支援にあたっている。</p> <p>2. 主な就職支援プログラムの実施</p> <p>1年次・2年次には、SPIテスト、1年生キャリアガイダンスの他、東京商工会議所と提携して職業観の醸成を目的とした「東商リレーションプログラム」等、早期から社会や自身の将来に関心を持つような支援を行っている。3年次には自己分析、履歴書・エントリーシートの書き方、面接対策等の支援講座のほか、就活マナーや企業の方々の協力を得ての模擬面接等、実践的なトレーニングを実施している。また、業界フェア、合同企業研究会など、業界・企業・職種研究の機会も設けている。さらに、4年生に対しては合同企業説明会や個別企業選考会を実施しており、卒業後も求人情報の提供や個別相談を実施している。なお、日本で就職を希望する外国人留学生向けにもガイダンスや合同企業説明会を行っている。</p>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

「学生生活に関する諸問題に総合的に対応することにより、学生の人間形成及び進路選択を指導・援助することを目的」として学生支援センターが設けられている。

本学独自の制度（学生主事制度）として、学生の人間形成及び学生生活の健全化を図るために総合的な教育指導に従事する「学生主事及び学生主事補」を配置しており、心身の健康等に関する面談が随時受けられる体制を構築している。

また、両キャンパス医務室でも看護師による相談を随時受けられる体制にある。さらに、各種相談日として専門医による「心の健康相談日」、本学専任教員による「法律相談日」「女子学生のための相談日」をそれぞれ月1回程度設け、加えて平成30（2018）年度からは本学専任教員による「心理相談日」を毎週1回設けている。令和2年度以降は、オンライン面談も対応。

令和5年度より「障がい学生支援に関する基本方針」が制定され、障がいのある学生に必要な修学機会の確保に向け、関係各所と連携をとりながら支援内容・方法の充実を図っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

○拓殖大学ホームページ

（情報公開）<https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/disclosure/>

（ガバナンス・コード）<https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/governance.html>

（自己点検・評価）<https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/evaluation.html>

（役員・組織図）<https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/organization.html>

（講義要項・教員情報）<http://syllabus.takushoku-u.ac.jp/index.html>

（学部・学科・大学院）<https://www.takushoku-u.ac.jp/academics/>

（中長期計画）<https://plan2030.takushoku-u.ac.jp/>

○大学ポータル

<https://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/00000000263501000.html>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310103206
学校名 (〇〇大学 等)	拓殖大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人拓殖大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		746人	719人	686人
内訳	第Ⅰ区分	430人	408人	
	第Ⅱ区分	185人	213人	
	第Ⅲ区分	131人	98人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				－
合計 (年間)				692人
(備考) ※前期中に支援対象者から家計急変による支援対象者となった者は家計急変者の欄に記載。 ※本学の制度利用により、支援対象者および家計急変による支援対象者に授業料等を減免せず奨学金のみ利用者を含む。				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	19人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	—	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	20人	人	人
(備考) 認定の取消しを受けた者の人数に、休停止中(支援区分なし)を含む。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	—	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	28人
(備考) 年間計には、適格認定における学業成績の判定の結果、2回連続で「警告」となった場合のうち、2回目の「警告」がGPA等が学部等における下位4分の1の範囲に属したことにより「停止」となった者を含む。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	108人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	108人	人	人
(備考) 人数に、「休・停止中」(支援区分なし)および、「希望無し(警告)」を含む。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。